

英語英文学科専門科目（平成30年度入学生用）

	科目 コード	授業 コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職 必修	概要	開放								
英語共通基礎科目（英語コミュニケーション）			基礎英語表現Ⅰ ” ” ”	②	30	1	前期	北山 長貴 阿部 隆夫 横山 利夫 小林 亜希	②	(英会話と作文) プレイスメン ト・テストによ りクラス分け									
			基礎英語表現Ⅱ ” ” ”	②	30	1	後期	阿部 隆夫 横山 利夫 松井 真人 渡邊真由美	②										
	20030	20031	発展英語表現Ⅰ（月曜Ⅱ限）	2	30	2	前期	マニ・タワ・アコリ											
	20030	20032	”（月曜Ⅳ限）																
	20030	20033	”（金曜Ⅳ限）																
	20040	20041	発展英語表現Ⅱ（火曜Ⅲ限）	2	30	2	後期	マニ・タワ・アコリ											
	20040	20042	”（金曜Ⅳ限）																
			英会話Ⅰ ” ”	②	30	1	前期	マニ・タワ・アコリ	②	3クラス									
			英会話Ⅱ ” ”	②	30	1	後期	マニ・タワ・アコリ	②	3クラス									
		20210	リーディングⅠ	2	30	1・2	前期	渡邊真由美											
		20220	リーディングⅡ								④	30	1・2	前期	太田 裕子				
		20230	リーディングⅢ									30	1・2	後期	金子 淳				
		20240	リーディングⅣ								2	30	1・2	後期	松井 真人				
		20320	ライティングⅠ ライティングⅡ	2 2	30 30	1 2	前期 後期	米野 裕子 米野 裕子											
		20420	リスニングⅠ リスニングⅡ	2 2	30 30	1 2	後期 後期	阿部 隆夫 横山 利夫											
	20462	TOEICリスニングⅠ TOEICリスニングⅡ	2 2	30 30	1 2	前期 前期	北山 長貴 松井 真人												
	20510	英文法Ⅰ	2	30	1・2	前期	松井 真人												
	20520	英文法Ⅱ								②	30	1・2	後期	阿部 隆夫					
	20610	時事英語	2	30	1・2	前期	渡邊真由美			外国									
英米文学科目	20710		イギリス文学史	2	30	1・2	前期	小林 亜希	○	8・9月開講	教養 教養 教養								
	20720		アメリカ文学史									④	30	1・2	前期	渡邊真由美			
	20730		イギリス文学作品研究										30	1・2	前期	小林 亜希			
	20740		アメリカ文学作品研究									2	30	1・2	後期	渡邊真由美			
	20750		英米児童文学作品研究									2	30	1・2	集中	井辻 朱美			
	20760		英米文学講読									2	30	1・2	前期	小林 亜希			
			英米文学基礎演習Ⅰ 英米文学基礎演習Ⅱ	2 2	30 30	1 1	後期 後期	三枝 和彦 渡邊真由美											
	20920	英米文学演習Ⅰ 英米文学演習Ⅱ	4 4	60 60	2 2	通年 通年	小林 亜希 渡邊真由美												
英語学科目			英語学基礎演習Ⅰ 英語学基礎演習Ⅱ 英語学基礎演習Ⅲ	2 2 2	30 30 30	1 1 1	後期 後期 後期	横山 利夫 松井 真人 北山 長貴		※注意1 第1学年はA群（基 礎演習）の7科目の うち1科目を選 択、第2学年はB群 （演習）の7科目の うち1科目を選 択 ※注意2：英米文 学演習Ⅰは本年度 開講せず									
	21110		英語学演習Ⅰ	4	60	2	通年	横山 利夫											
	21120		英語学演習Ⅱ								B	60	2	通年	松井 真人				
	21130		英語学演習Ⅲ	④	60	2	通年	北山 長貴											
		21210	英語学入門Ⅰ	2	30	1・2	前期	松井 真人		○		教養 教養 教養							
		21220	英語学入門Ⅱ										②	30	1・2	後期	横山 利夫		
		21230	英語学入門Ⅲ											30	1・2	後期	北山 長貴		
	21240	英語学講読	2										30	2	前期	北山 長貴			
文化とコミュニケーション	21330		西洋史	2	30	1・2	前期	山崎 彰	②	[日]「外国史2」で読替	教養 教養 教養 教養								
	21340		日本文化論									宮田 直樹							
	21351		異文化理解										マニ・タワ・アコリ						
	21370		異文化コミュニケーション									阿部 隆夫							
	21320		英米文化論										小林 亜希						
			異文化理解基礎演習 異文化コミュニケーション基礎演習									2 2	30 30	1 1	後期 後期	畑田 秀将 阿部 隆夫			
		21390	異文化理解演習									4	60	2	通年	畑田 秀将			※注意1と同じ
		21391	異文化コミュニケーション演習																
	21410	卒業研究	4		2														

(注) ○数字は必修単位、}数字は選択必修単位
「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる
教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす

英語英文学科専門科目（平成31年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	概要	開放					
英語共通基礎科目（英語コミュニケーション）	20010	20011	基礎英語表現Ⅰ	②	30	1	前期	北山 長貴 阿部 隆夫 横山 利夫 小林 亜希	○	(英会話と作文) プレイスメント・テストによりクラス分け						
	20010	20012	〃													
	20010	20013	〃													
	20010	20014	〃													
	20020	20021	基礎英語表現Ⅱ	②	30	1	後期	阿部 隆夫 横山 利夫 松井 真人 渡邊真由美								
	20020	20022	〃													
	20020	20023	〃													
	20020	20024	〃													
			発展英語表現Ⅰ	2	30	2	前期	マニ・タワ・アコリ								
			〃													
			発展英語表現Ⅱ	2	30	2	後期	マニ・タワ・アコリ								
			〃													
	20110	20111	英会話Ⅰ（火曜Ⅰ限）	②	30	1	前期	マニ・タワ・アコリ				②	3クラス			
	20110	20112	〃（火曜Ⅳ限）													
	20110	20113	〃（木曜Ⅴ限）													
	20120	20121	英会話Ⅱ（月曜Ⅲ限）	②	30	1	後期	マニ・タワ・アコリ				②	3クラス			
	20120	20122	〃（火曜Ⅳ限）													
	20120	20123	〃（木曜Ⅳ限）													
	20210		リーディングⅠ	2	30	1・2	前期	渡邊真由美				○				
20220		リーディングⅡ														
20230		リーディングⅢ														
20240		リーディングⅣ														
20310		ライティングⅠ	2	30	1	前期	米野 裕子	○								
		ライティングⅡ														
20410		リスニングⅠ	2	30	1	後期	阿部 隆夫	○								
		リスニングⅡ														
20461		TOEICリスニングⅠ	2	30	1	前期	北山 長貴	○								
		TOEICリスニングⅡ														
20510		英文法Ⅰ	2	30	1・2	前期	松井 真人	○								
	20520	英文法Ⅱ														
20610		時事英語	2	30	1・2	前期	渡邊真由美			外国						
英語文学科目	20710		イギリス文学史	2	30	1・2	前期	小林 亜希	○	8・9月開講	教養 教養 教養					
	20720		アメリカ文学史													
	20730		イギリス文学作品研究													
	20740		アメリカ文学作品研究													
	20750		英米児童文学作品研究													
	20760		英米文学講読													
	20810		英米文学基礎演習Ⅰ	2	30	1	後期	三枝 和彦								
	20820		英米文学基礎演習Ⅱ	2	30	1	後期	渡邊真由美								
		英米文学演習Ⅰ	4	60	2	通年	小林 亜希	※注意1 第1学年はA群 (基礎演習)の 7科目のうち1 科目を選択、 第2学年はB群 (演習)の7科 目のうち1科目 を選択								
		英米文学演習Ⅱ	4	60	2	通年	渡邊真由美									
		英語学基礎演習Ⅰ	2	30	1	後期	横山 利夫									
英語学科目	21020		英語学基礎演習Ⅱ	2	30	1	後期	松井 真人	○		教養 教養 教養					
	21030		英語学基礎演習Ⅲ	2	30	1	後期	北山 長貴								
			英語学演習Ⅰ	4	60	2	通年	横山 利夫								
			英語学演習Ⅱ	4	60	2	通年	松井 真人								
			英語学演習Ⅲ	4	60	2	通年	北山 長貴								
	21210		英語学入門Ⅰ	2	30	1・2	前期	松井 真人								
	21220		英語学入門Ⅱ	2	30	1・2	後期	横山 利夫								
21230		英語学入門Ⅲ	2	30	1・2	後期	北山 長貴									
		英語学講読	2	30	2	前期	北山 長貴									
文化とコミュニケーション	21330		西洋史	2	30	1・2	前期	山崎 彰	○	[日]「外国史2」で読替	教養 教養 教養					
	21340		日本文化論													
	21351		異文化理解													
	21370		異文化コミュニケーション													
	21320		異文化論													
	21380		異文化理解基礎演習									2	30	1	後期	畑田 秀将
	21381		異文化コミュニケーション基礎演習									2	30	1	後期	阿部 隆夫
			異文化理解演習									4	60	2	通年	畑田 秀将
		異文化コミュニケーション演習	4	60	2	通年	阿部 隆夫									
		卒業研究	4		2											

(注) ○数字は必修単位、}数字は選択必修単位
「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる
教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修・平成31年度入学生は教職必修
担当教員			
北山 長貴			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	基本的な英語表現の復習と練習をします。また、コロケーション（語と語の組み合わせ）や句動詞(Phrasal verb)など英語特有の表現を学び英語運用能力を高めることを目標とします。		
授業計画	第1回	文型（話題：高齢化問題、到達目標：「高齢者介護」について書く）	
	第2回	名詞・限定詞（話題：CMソング、到達目標：「好きな歌」について口頭発表）	
	第3回	代名詞（話題：語源、到達目標：「カタカナ英語」を3つプレゼンテーション）	
	第4回	未来形・進行形（テーマ：ヨーロッパ、到達目標：「行きたい国」について書く）	
	第5回	完了形（話題：エコカー、到達目標：「未来の移動手段」について口頭発表）	
	第6回	助動詞（話題：Wi-Fi電波、到達目標：「便利なアプリ」のプレゼンテーション）	
	第7回	不定詞（話題：食品問題、到達目標：「日本食」2品のプレゼンテーション）	
	第8回	分詞（話題：海洋環境問題、到達目標：「関心のある環境問題」口頭発表）	
	第9回	動名詞（話題：Shakespeare、到達目標：「作品名とその登場人物」作文）	
	第10回	比較（話題：水問題、到達目標：「ミネラルウォーターの必要性」口頭発表）	
	第11回	前置詞（話題：Mother Goose、到達目標：「マザーグース」プレゼンテーション）	
	第12回	関係詞（1）（話題：ファッション、到達目標：「好きなブランド」口頭発表）	
	第13回	関係詞（2）（話題：言語、到達目標：「英語を話す国」作文）	
	第14回	態（話題：アニメ、到達目標：「世界で有名な日本アニメ」プレゼンテーション）	
	第15回	仮定法（話題：琉球、到達目標：「沖縄の抱える問題」作文）	
授業概要	授業計画にある英語表現を含んだ様々な話題を毎回、読み・聞きます。また各話題に関連した情報や考えを相手に文書・口頭・複数の手段（プレゼンテーション）で伝える練習をします。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	翌週の学習内容の範囲に該当するテキストのページを指定するので、その該当箇所を予め読み、理解すること。		
テキスト	“English Makeover” 福井慶一郎、他著（成美堂）1800円（本体価格）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	予習を必ずしてきてください。ノートを1冊用意してきてください。教室へは必ず辞書を持ってきてください。		
評価方法	レポート（20%）、筆記試験（80%）		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
阿部 隆夫			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	様々な分野の情報について読みとったり聞き取ったりし、目的に応じてその情報や考えを理解することができ、更には複数の領域を統合した言語活動が行えるようになること、CEFR-B2以上を目標にする。
授業計画	<p>第1回 personal information 職業・年齢など (のコミュニケーション、以下同じ)</p> <p>第2回 personal information 趣味・習慣など</p> <p>第3回 shopping 値段と割引</p> <p>第4回 shopping 値引き交渉</p> <p>第5回 restaurants メニュー、注文</p> <p>第6回 restaurants 心づけ</p> <p>第7回 humour ユーモアと冗談</p> <p>第8回 humour 困った瞬間の対処</p> <p>第9回 sports スポーツ観戦を語る</p> <p>第10回 sports 娯楽を語る</p> <p>第11回 future 未来の計画</p> <p>第12回 future 決めたこと、提案</p> <p>第13回 men and women ステレオタイプ</p> <p>第14回 men and women 統計と割合</p> <p>第15回 obligation and advice 警告と助言 (のコミュニケーション)</p>
授業概要	日常に不可欠な英語表現を実生活の場面設定の中で学ぶ。言語習得の最新訓練法と異文化間コミュニケーション事例を学ぶ。状況を軸にした会話応用練習で総合コミュニケーション能力を向上させる。各回の初めに文字を使わない外国語指導方法の実践例や、社会言語学に基づいたコミュニケーション事例分析を紹介する
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	音声データを使って本文を正確に音読する予習が必要です。
テキスト	Peter Viney & Karen Viney, In English Pre-Intermediate (Oxford UP, 2005); タカオ・アベ『ピンときた！納得の異文化間英語コミュニケーション』(開拓社, 2011)
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	各自の予習時に理解できなかった箇所に関しては日本語で最初に説明を受ける。その上で、平易な英語表現での指導の下、各練習にのぞむ。
評価方法	平常の発表課題 (30%)、提出課題 (50%) と試験 (20%)
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
横山 利夫			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>①「3行英文ライティング」：センテンス（文）レベルのライティングは普通の英作文で、パラグラフ（段落）レベルのライティングは内容的にまとまりのある複数の英文によるパラグラフ単位の作文です。それら複数の英文のひとつひとつが前後の英文とのつながり方において適切でなければなりません。この授業「3行英文ライティング」ではパラグラフ・レベルのライティングに対応できるようになるための英語力を身につけることを目標にします。</p> <p>②テキストで使用されている基本的な言い回しを練習し、簡単な日常会話ができるようになることを目標にする。</p>
授業計画	<p>第1回 授業についてのガイダンス</p> <p>第2回 Weather(進行形)</p> <p>第3回 The Four Seasons(未来形)</p> <p>第4回 Campus Life (助動詞)</p> <p>第5回 Campus Life (2)(受動態)</p> <p>第6回 Shopping(比較)</p> <p>第7回 Eating Out(不定詞)</p> <p>第8回 Music(現在完了)</p> <p>第9回 Television and Radio(分詞)</p> <p>第10回 Methods of Communication(動名詞)</p> <p>第11回 Methods of Transportation(前置詞)</p> <p>第12回 Traveling Overseas(間接疑問文)</p> <p>第13回 Health and Exercise(接続詞)</p> <p>第14回 A Stay in Hawaii(関係代名詞)</p> <p>第15回 A Home Stay in Auckland, New Zealand(関係副詞)</p>
授業概要	<p>上記の授業計画を参照のこと。毎回、8名の方に課題を提出していただく。前期に2回、山形大学工学部で学ぶ留学生の方々に授業に参加していただき、様々なテーマで英会話を行う。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	それぞれの文法事項について、高校時代に使った参考書で復習してください。
テキスト	Hiroyuki Tomi, Curt Wold 著 Three-line Writing in English 成美堂 1800円 1回目の授業はテキストを購入しないで、参加してください。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	①については予習をしっかりとやること。②については積極的に英語で話そう。
評価方法	授業参加：30点(授業での積極的な発言、出席は2/3以上で、1回欠席5点減点、受講受理期間も出席を取る)、課題の提出(20点)、2回の筆記試験(50点)
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
小林 亜希			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2. 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 3. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと（やり取り・発表）ができる。 4. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 5. 複数の領域を統合した言語後活動を遂行することができる。
授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス</p> <p>第2回 April Rhodes—現在完了形</p> <p>第3回 New Member—動名詞</p> <p>第4回 Come Back to Glee—関係詞</p> <p>第5回 Somebody to Love—比較</p> <p>第6回 Hairography—不定詞 1</p> <p>第7回 Objective Achieved —進行形 ※小テスト</p> <p>第8回 You Set Me Up—使役動詞</p> <p>第9回 True Colors—助動詞</p> <p>第10回 The Thunderclap—受動態</p> <p>第11回 We need a Co-Captain—仮定法 1</p> <p>第12回 Jump—不定詞 2</p> <p>第13回 Smile 仮定法 2</p> <p>第14回 文法／リーディングのまとめ</p> <p>第15回 リスニング／スピーキングのまとめ ※小テスト</p>
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> ①教科書の問題を解くことによって、基本的な語彙と文法を習得し、リスニングとリーディングの基礎を涵養します。 ②毎時間、担当者を決めて自分の出身地を紹介するプレゼンテーションを英語で作成（ライティング）し、発表してもらいます。その後、担当者と受講者の間で簡単な質疑応答（やり取り）を英語で行います。 ③教科書の英語を利用して日常会話で用いられる英語表現を学びます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の問題を予習して授業に臨むこと。 ・わからない単語は予め辞書で調べておくこと。
テキスト	『グリーで学ぶコミュニケーション英語②』（松柏社）2376円（税込）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> ・辞書を引き、丁寧に予習してください。 ・適宜課題を出しますので、提出してください。
評価方法	授業での発表・課題（50%）、小テスト（50%） 授業の3分の2以上の出席が条件です。
参考文献	参考資料（ハンドアウト）を適宜配布します。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
阿部 隆夫			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	様々な話題について目的、場面、状況に応じて話したり書いたりすることができ、言語活動の複数の領域を統合した活動を行うこと、CEFR-B2以上を目標にする
授業計画	<p>第1回 Starting conversations 天候の会話、情報を聞き出す（コミュニケーション、以下同様）</p> <p>第2回 Starting conversations 会話の継続（のコミュニケーション、以下同様）</p> <p>第3回 If … (subjunctives) 叙想法の表現、可能性の表現</p> <p>第4回 If … (subjunctives) 結果を述べる</p> <p>第5回 Health 健康に関する会話、健康のためのアドバイス</p> <p>第6回 Health 体の部位、治療法</p> <p>第7回 People 関係代名詞、服装を描写する</p> <p>第8回 People 推量の助動詞、仕事、役割を語る</p> <p>第9回 Changes 過去をさかのぼって語る、勤続〇十年を語る</p> <p>第10回 Changes 会社の中の事務機器の変化、生活の変遷</p> <p>第11回 On holiday 動詞の-ing形と-ed形の使い分け、休暇について語る</p> <p>第12回 On holiday 不定代名詞や動詞の原形を使う表現、謝罪、ホテルでの問題処理</p> <p>第13回 Stories 過去完了、物語の語り聞かせ</p> <p>第14回 Stories 過去時制と過去完了の区別、逸話を語る</p> <p>第15回 The news 受動態 新聞の見出し、ニュースのヘッドラインの話し方</p>
授業概要	日常に不可欠な英語表現を実生活の場面設定の中で学ぶ。言語習得の最新訓練法と異文化間コミュニケーション事例を学ぶ。状況を軸にした会話応用練習で総合コミュニケーション能力を向上させる。各回の初めに文字を使わない外国語指導方法の実践例や、社会言語学に基づいたコミュニケーション事例分析を紹介する
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	音声データを使って本文を正確に音読する練習が必要です。
テキスト	Peter Viney & Karen Viney, In English Pre-Intermediate (Oxford UP, 2005); タカオ・アベ『ピンときた！納得の異文化間英語コミュニケーション』（開拓社, 2011）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	各自の予習時に理解できなかった箇所に関しては日本語で最初に説明を受ける。その上で、平易な英語表現での指導の下、各練習にのぞむ。
評価方法	平常の発表課題（30%）、提出課題（50%）と試験（20%）
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
横山 利夫			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	ライティングについて：多少の誤りを気にせず、まとめた内容の英文を書けるようになること。 スピーキングについて：テキストにある単語を用いて、自分の考えを英語で話せるようになること。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	Self description(Informal e-mail)	
	第3回	Description of campus life(school booklet)	
	第4回	Describing a problem and possible solutions(A) (school web page)	
	第5回	山大工学部の留学生と英語での交流	
	第6回	Inquiring about an internship (formal e-mail)Writing an entry for a class blog(Movie Review)	
	第7回	Writing an entry for a class blog(Movie Review)	
	第8回	前半の復習	
	第9回	Describing a problem and possible solutions (B) (School web page)	
	第10回	Writing about our special skills and giving advice(Student newsletter)	
	第11回	山形大学工学部の留学生と英語で交流	
	第12回	Describing your best experience(Personal story)	
	第13回	Describing trends over time(Description of a graph or charts)	
	第14回	Describing your school (Wikipedia entry)	
	第15回	後半の復習	
授業概要	①ライティングについて：下記のテキストを使用して、さまざまな読者を想定したライティングの練習を行います。また、さまざまなプロセス (Warm-up, Language Focus, Example Models, Getting Ideas, First Draft, Editing, Reflection) を通じて英語での文章の書き方を学びます。毎回、8名の方に課題を提出していただく。 ②スピーキングについて：ライティングのテーマでスピーキングの練習を行います。また、山形大学工学部で学ぶ留学生に授業に参加していただき、さまざまなテーマで英会話を行う		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	受講者が提出した課題のコピーをチェックして、授業に臨むこと。		
テキスト	Neil Cowie and Keiko Sakui 著 Get It Down— You can write in English センゲージ ラーニング (2009) 1890円 第1回目の授業はテキストなしで参加すること		
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	英語を話して、書く練習です。大いに間違ってください。毎回、予習が必要です。		
評価方法	提出課題40点、主体的な授業参加60点 (授業での発言、授業回数の2 / 3以上の出席 欠席1回6点減点、受講受理期間も出欠を取る)		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
松井 真人			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	身近な事柄について平易な英語で話したり、書いたりすることができること。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	助けを求める表現／名詞の種類を学ぶ	
	第3回	紹介の仕方の表現／現在完了形を学ぶ	
	第4回	誘いの表現／受身形(1)を学ぶ	
	第5回	相手をほめる表現／付加疑問文を学ぶ	
	第6回	驚きの表現／関係代名詞を学ぶ	
	第7回	同意する・同意しない表現／代名詞を学ぶ	
	第8回	相づちの打ち方の表現／複文を学ぶ	
	第9回	確認の表現／受身形(2)を学ぶ	
	第10回	会話を始める表現／to不定詞を学ぶ	
	第11回	希望や願いの表現／接続詞を学ぶ	
	第12回	心配して尋ねる表現／命令文を学ぶ	
	第13回	推量・推測の表現／感嘆文を学ぶ	
	第14回	各自が選んだテーマについて英語で2～3分程度のスピーチをする。（第1グループ）	
	第15回	各自が選んだテーマについて英語で2～3分程度のスピーチをする。（第2グループ）	
授業概要	毎回、受講者は身近な事柄について英語で30秒から1分程度のスピーチをする。その後、テキストに沿って英作文の練習をする。最後の2回の授業では英語で2分から3分程度のスピーチを行い、話した内容を英文エッセイにまとめて後日提出し、担当教員の添削指導を受ける。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	予習として、英語スピーチの内容をよく考えておくこと。また、次回学習する範囲の練習問題を解き、英作文を書いてくること。		
テキスト	David E. Bramley・河合忠仁（著）Let's Learn Basic English for Communication 松柏社 1,836円（税込）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業でスピーチをする時には、難しい英語を使う必要はない。易しい英語でよいので、語法や文法に気を付けて、しっかり準備して話してほしい。受講生が提出した英文エッセイはできるだけ丁寧に添削したい。		
評価方法	授業への参加度50%、最終スピーチ20%、英文エッセイ30%		
参考文献	授業中に適宜資料を配布する。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修・教職必修
担当教員			
渡邊 真由美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	様々な話題について目的、場面、状況に応じて話す・書くことができ、複数の領域を統合した言語活動を行う。		
授業計画	第1回	イントロダクション 授業の進め方、評価方法などの説明	
	第2回	Unit 1 品詞について：文法事項の説明、問題を解く。英作文を行う。また、英語圏で日本人が陥りやすい失敗例を読む。（聞くこと、書くこと、読むこと、領域複合型の言語活動を行う）	
	第3回	Unit1・Unit2 品詞について（続き）・名詞について：文法事項の説明、問題を解く。英作文を行う。英語圏で日本人が陥りやすい失敗例を読む。（聞くこと、書くこと、読むこと、領域複合型の言語活動を行う）	
	第4回	Unit1の小テスト、Unit 2 品詞について（続き） 英作文、リスニングを行う。（聞くこと、書くこと、領域複合型の言語活動を行う）	
	第5回	Unit 2の小テスト、Unit 3 動詞について 文法事項の確認、問題を解く。英作文を行う。英語圏で日本人が陥りやすい失敗例を読む。（書くこと、読むこと、領域複合型の言語活動を行う）	
	第6回	Unit 3 動詞について（続き）・プレゼンテーション 英作文、いくつかの場面（自己紹介・受賞スピーチなど）に応じたプレゼンテーションを行う。（聞くこと、書くこと、話すこと、領域複合型の言語活動を行う）	
	第7回	Unit 3の小テストUnit 4 現在・過去・未来について 文法事項の確認、問題を解く。英作文を行う。英語圏で日本人が陥りやすい失敗例を読む。（聞くこと、書くこと、読むこと、領域複合型の言語活動を行う）	
	第8回	Unit 4・Unit 5 現在・過去・未来（続き）・進行形・完了形 文法事項の確認、英作文、リスニングを行う。また、英語圏で日本人が陥りやすい失敗例を読む。（書くこと、読むこと、聞くこと、領域複合型の言語活動を行う）	
	第9回	Unit 4の小テスト、Unit 5 進行形・完了形（続き） プレゼンテーション：冬休みの予定について発表。（聞くこと、話すこと、領域複合型の言語活動を行う）	
	第10回	クリスマス・カード、年賀状作成 身近なひとに送るクリスマス・カード、年賀状を作成する。（読むこと、書くこと、領域複合型の言語活動を行う）	
	第11回	Unit 5の小テスト・Unit 8 その他の修飾表現 文法事項の確認、問題を解く。英作文を行う。また、英語圏で日本人が陥りやすい失敗例を読む。（聞くこと、書くこと、読むこと、領域複合型の言語活動を行う）	
	第12回	Unit 8 その他の修飾表現（続き） 英作文、リスニングを行う。（聞くこと、書くこと、領域複合型の言語活動を行う）	
	第13回	Unit 8の小テスト、Unit 9 仮定法 文法事項の確認、問題を解く。英作文を行う。また、英語圏で日本人が陥りやすい失敗例を読む。（書くこと、読むこと、聞くこと、領域複合型の言語活動を行う）	
	第14回	Unit 9 仮定法（続き）・Unit 13 可算名詞と不可算名詞 文法事項の確認、問題を解く。英作文を行う。また、英語圏で日本人が陥りやすい失敗例を読む。（聞くこと、書くこと、読むこと、領域複合型の言語活動を行う）	
	第15回	Unit 9の小テスト、Unit 13可算名詞と不可算名詞（続き） 文法事項の確認、問題を解く。プレゼンテーション：自分の将来像について。（書くこと、読むこと、話すこと、領域複合型の言語活動を行う）	
授業概要	テキストを使って、基礎的な文法事項を確認したうえで、様々な話題について、目的や場面、状況に応じて適切な英文が書けるようにする。英米語圏に留学した際の英語のコミュニケーションにおいてありがちな間違いをまとめた英文を読み、何が間違っていて、どのようにすれば適切な英語表現活動を行えるのか、理解できるようにする。授業中に英語でなされる会話の音声聞き、聞き取りを行う。それによって、目的に応じた情報や考えを理解できるようにする。また、授業中に状況を設定（人を紹介する、受賞スピーチなど）し、その状況にふさわしい英語でのプレゼンテーションを行ってもらう。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業中に予習箇所を指示します。必ず予習を行うこと。		
テキスト	寺秀幸、智原哲郎、石田秀雄 『Vitamin G—Grammer to Energize Your English 書ける・話せる実践英文法』センゲージ ラーニング株式会社		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	辞書を必ず持参すること。予習をして来ること。		

評価方法	5回以上欠席した場合、成績評価は行わない。 一つのユニットが終わった翌週の授業内で小テストを行う。小テストとプレゼンテーション、クリスマス・カードと年賀状の作成から評価します。小テスト80%、プレゼンテーション、10%、クリスマス・カード、年賀状作成 10%
参考文献	英和辞書（紙でも電子辞書でも可）
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
マーニ・タヴァコリ			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	The purpose of this class is for students to learn words and expressions to convey their feelings and ideas clearly and effectively in English.
授業計画	<p>第1回 Introduction to the Course</p> <p>第2回 Body Idioms</p> <p>第3回 Values Reading</p> <p>第4回 My Favorite Book</p> <p>第5回 My Favorite Artist</p> <p>第6回 A Trip to My Hometown</p> <p>第7回 A Trip Abroad</p> <p>第8回 Audiovisual</p> <p>第9回 Fortunetelling</p> <p>第10回 Haiku Party</p> <p>第11回 Reading Discussion</p> <p>第12回 English Idioms</p> <p>第13回 Songs and Games</p> <p>第14回 Review</p> <p>第15回 Test Preparation</p>
授業概要	Using printed articles, the teacher will teach students expressions for discussing various topics. Students will then be divided into small groups to discuss the topic in English. The teacher will supervise the discussions and answer any questions the students may have.
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	Preparation for the class.
テキスト	There is no textbook for this class. The teacher will prepare copies of material for some classes. Students will take notes. Also, students are asked to bring a Japanese-English/English-Japanese Dictionary, or an electric dictionary.
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	This class will be challenging and fun.
評価方法	50% of the grade will be based on active class participation. 50% will be based on a final interview exam.
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
マーニ・タヴァコリ			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	The purpose of this class is for students to learn how to relate stories about their life and their experiences clearly in English.
授業計画	<p>第1回 Introduction to the Course</p> <p>第2回 Funny Stories</p> <p>第3回 Scary Stories</p> <p>第4回 Travel Stories</p> <p>第5回 Sports Stories</p> <p>第6回 Romantic Stories</p> <p>第7回 Game</p> <p>第8回 Animal Stories</p> <p>第9回 Embarrassing Stories</p> <p>第10回 Audiovisual</p> <p>第11回 Reading Discussion</p> <p>第12回 Future Stories</p> <p>第13回 A Day in the Life</p> <p>第14回 Review</p> <p>第15回 Test Preparation</p>
授業概要	Students will write a daily journal in English. Common mistakes from journals will be corrected each week. Students will be asked to prepare a story to present each week. There will also be dictation practice.
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	Journal
テキスト	There is no textbook for this class. Students will need 2 notebooks, for notes and English journal. Also, students are asked to bring a Japanese-English/English-Japanese Dictionary, or an electric dictionary.
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	This class is very challenging, but very effective for improving English ability.
評価方法	25% Class Participation. 25% Final Interview Exam. 50% English Journal.
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
マーニ・タヴァコリ			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	The purpose of this class is to learn how to use words and simple expressions that will help students to express themselves clearly and correctly in daily activities. Students will also learn how to improve their understanding of spoken English. Only English will be used when teaching this class.		
授業計画	第1回	Introduction to the Course	
	第2回	Likes and Dislikes	
	第3回	Food	
	第4回	Restaurant English	
	第5回	My Hometown	
	第6回	Holidays and Festivals	
	第7回	Movies and TV Shows	
	第8回	Audiovisual	
	第9回	Airplane	
	第10回	Immigration	
	第11回	Hotel	
	第12回	Superstitions	
	第13回	Game	
	第14回	Review	
	第15回	Test Preparation	
授業概要	In each class, the teacher will teach basic phrases to discuss a general topic. Students will then be divided into small groups to practice the phrases and discuss the topic in English. The teacher will supervise the discussions and answer any questions the students may have.		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	Jornal		
テキスト	There is no textbook for this class. Students will take notes. Also, students are asked to bring a Japanese-English/English-Japanese Dictionary, or an electric dictionary.		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	Don't be afraid to speak in English. English is fun! Participate enthusiastically in class activities. A good attitude makes a strong learning environment.		
評価方法	50% of the grade will be based on active class participation. 50% will be based on a final interview exam.		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
マーニ・タヴァコリ			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	The purpose of this class is to learn how to use words and simple expressions that will help students to express themselves clearly and correctly in daily activities. Students will also learn how to improve their understanding of spoken English. Only English will be used when teaching this class. The contents of this class are different from English Conversation I.
授業計画	<p>第1回 Introduction to the Course</p> <p>第2回 Describing `People</p> <p>第3回 Family</p> <p>第4回 Comparison with Adjectives</p> <p>第5回 Numbers</p> <p>第6回 Shopping</p> <p>第7回 Time</p> <p>第8回 Audiovisual</p> <p>第9回 Music</p> <p>第10回 Fast Food</p> <p>第11回 American Money</p> <p>第12回 Health</p> <p>第13回 Hobbies and Free Time</p> <p>第14回 Review</p> <p>第15回 Test Preparation</p>
授業概要	In each class, the teacher will teach basic phrases to discuss a general topic. Students will then be divided into small groups to practice the phrases and discuss the topic in English. The teacher will supervise the discussions and answer any questions the students may have.
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	Jornal
テキスト	There is no textbook for this class. Students will take notes. Also, students are asked to bring a Japanese-English/English-Japanese Dictionary, or an electric dictionary.
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	Don't be afraid to speak in English. English is fun! Participate enthusiastically in class activities. A good attitude makes a strong learning environment.
評価方法	50% of the grade will be based on active class participation. 50% will be based on a final interview exam.
参考文献	
備考	

講義科目名称：リーディング I (20210)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
渡邊 真由美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	20世紀の世界史、文化史、日本史について英語で記述された文章を読む。英語を正しく読み、聞き取れるようにすると同時に、今まで直接的につながる歴史を概観していきます。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン 授業の進め方、予習の仕方、評価方法についての説明を行う</p> <p>第2回 1900-1910 世界の歴史 20世紀の幕開けと共に、アメリカ合衆国がいかにか世界の主要国として台頭してきたかを読む。</p> <p>第3回 1900-1910 科学 ライト兄弟の動力飛行機の初飛行について</p> <p>第4回 1900-1910 日本 日本がいかにかして帝国主義時代へと突入したのかを読む。</p> <p>第5回 1910-1920 世界の歴史 第一次世界大戦について</p> <p>第6回 1910-1920 文化史 絵画におけるモダニズム運動について</p> <p>第7回 1920-1930 世界の歴史 ドイツの戦後賠償とその影響について</p> <p>第8回 1920-1930 文化史 ジャズの登場について</p> <p>第9回 Unit 10: 1930-1940 世界の歴史 大恐慌、その発生と影響について</p> <p>第10回 Unit 11: 1930-1940 文化史 映画産業の興隆について</p> <p>第11回 Unit 12: 1930-1940 日本 戦争への道</p> <p>第12回 Unit 13: 1940-1950 世界の歴史 第二次世界大戦について</p> <p>第13回 Unit 14 1940-1950 科学史 (1) 戦争と科学技術に進歩について</p> <p>第14回 Unit 14: 1940-1950 科学史 (2) 戦争と科学技術の進歩について</p> <p>第15回 Unit 16: 1950-1970 世界の歴史 冷戦時代について</p>
授業概要	20世紀の歴史を世界史、文化・科学史、日本史という3つの視点から書かれたテキストを読み進めていきます。授業では主に、世界の歴史と文化・科学の歴史を中心に読んでいきます。授業では、予習をしてきてもらい、授業中に指名し、訳をつけてもらいます。構文に注意しながら、正確に英文を読めるようにしていきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次回に予習してくる箇所を指定します。その部分について、単語の意味を調べ、授業中に日本語訳を発表できるように英文を読んで着てください。
テキスト	Mark Jewel 著 『20世紀レビューー世界・文化・日本ー』朝日出版社
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	歴史を知ることは、学ぼうとする国を知る第一歩です。アメリカの歴史を学びながらアメリカ社会やひいては世界を動かす力がどこから生まれてくるのかを考えてください。わからないところがあれば、どんどん質問してください。
評価方法	定期試験 100%。 5回以上欠席した場合、単位の認定は行わない。
参考文献	
備考	

講義科目名称：リーディングⅡ（20220）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
太田 裕子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	英語学概論として、英語に関する様々な話題を専門用語を避けて平易な英語で書かれた教科書を読みます。語彙力の養成、読解力の向上に取り組みます。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 PartC： p 10, p14 Chap. 4 速読＋Exercise A&B</p> <p>第3回 PartC： p 18, p22 Chap. 4 和訳発表＋精読</p> <p>第4回 PartC： p 26, p30 Chap. 5 速読＋Exercise A&B</p> <p>第5回 PartC： p 34, p38 Chap. 5 和訳発表＋精読</p> <p>第6回 PartC： p 42, p46 Chap. 7 速読＋Exercise A&B</p> <p>第7回 PartC： p 50, p54 Chap. 7 和訳発表＋精読</p> <p>第8回 PartC： p 58, p62 Chap. 18 速読＋Exercise A&B</p> <p>第9回 PartC： p 66, p70 Chap. 18 和訳発表＋精読</p> <p>第10回 PartC： p 74, p78 Chap. 23 速読＋Exercise A&B</p> <p>第11回 PartC： p 82, p86 Chap. 23 和訳発表＋精読</p> <p>第12回 PartC： p 90, p94, p 98, p102</p> <p>第13回 PartC： p 106, p110</p> <p>第14回 習熟度の確認</p> <p>第15回 習熟度の確認</p>
授業概要	演習形式で授業を行います。26章から5章を選んで読む予定です。和訳担当を決めて発表していただきます。訳すところの英文を読んでから、和訳をしてください。クラス全体に聞こえるようにゆっくりと大きな声で発表しましょう。発表者は和訳を紙に書いて用意してきましょう。そして、PartCの整序英作文を1回2章分ずつ取り組む予定です。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業を踏まえてテキストを今一度読み直し、毎回の授業のノートやメモを整理すること。
テキスト	英語についての26章 Twenty-six Short Essays on English (2013) 英宝社 定価1,995円 Naoyuki Akaso, William Herlofsky, Katsumasa Simuzu ISBN978-4-269-14018-9
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	予習として大まかな情報を読み取るだけなら、速読でいいのですが、読解に必要な語彙力養成のために単語の意味調べをするようにしましょう。和訳担当者以外の人にも内容に関する質問や和訳をお願いすることがあります。
評価方法	授業で読んだところの内容理解、文法事項、語彙に関する筆記試験を行います。グループワークへの参加、提出物も評価の対象とします。授業参加（アクティビティへの参加など20点）、提出物（30点）、学期末試験（50点）
参考文献	音読MAX (2012) 南雲堂 1,400円＋税 黒川裕一著 ISBN978-4-523-26512-2
備考	

講義科目名称：リーディングⅢ（20230）

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
金子 淳			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 英語文学作品において使用されている様々な英語表現について理解できる。 2. 英語文学作品で描かれている、英語が使われている国や地域の文化について理解できる。 3. 英語で書かれた代表的な英語文学について理解できる。
授業計画	<p>第1回 英語文学を学ぶということについて</p> <p>第2回 アメリカ文学の特徴について</p> <p>第3回 ジョン・スタインベックの生涯と作品について</p> <p>第4回 ジョン・スタインベック『エデンの東』概要解説</p> <p>第5回 ジョン・スタインベック『エデンの東』オープニング 読解</p> <p>第6回 ジョン・スタインベック『エデンの東』第49章 読解</p> <p>第7回 ジョン・スタインベック『エデンの東』エンディング 読解</p> <p>第8回 マーガレット・ミッチェルの生涯と作品について</p> <p>第9回 マーガレット・ミッチェル『風とともに去りぬ』概要解説</p> <p>第10回 マーガレット・ミッチェル『風とともに去りぬ』第1章 読解</p> <p>第11回 マーガレット・ミッチェル『風とともに去りぬ』と南北戦争 読解</p> <p>第12回 マーガレット・ミッチェル『風とともに去りぬ』エンディング 読解</p> <p>第13回 トルーマン・カポーティの生涯と作品について</p> <p>第14回 トルーマン・カポーティ『ティファニーで朝食を』概要解説</p> <p>第15回 トルーマン・カポーティ『ティファニーで朝食を』読解</p>
授業概要	代表的な英語文学を読みながら、リーディングの力を養います。英語文学の素養を養うと同時にリーディングの力をつけることを狙いとします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業を踏まえてテキストを今一度読み直し、毎回の授業のノートやメモを整理すること。授業中にわからなかった語句の意味を調べること。
テキスト	使用しません。授業で使用する資料は、適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	きちんと予習をして、授業に臨んで下さい。授業の後は、必ず復習をするようにして下さい。
評価方法	授業中に課す課題40% + 複数回の小テスト40% + 受講する姿勢20%
参考文献	Steinbeck, John. The Complete Works of John Steinbeck, vol. 8, East of Eden. Rinsen Book, 1990.ほか
備考	

講義科目名称：リーディングⅣ（20240）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
松井 真人			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	文法や語法に注意を払いながら英文を精読することを通して、英語読解力を身につけること。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	Lesson 1 英語漫画の読解、語彙・表現の学習、英作文・聞き取りの練習	
	第3回	Lesson 1 英文エッセイの精読	
	第4回	Lesson 2 英語漫画の読解、語彙・表現の学習、英作文・聞き取りの練習	
	第5回	Lesson 2 英文エッセイの精読	
	第6回	Lesson 3 英語漫画の読解、語彙・表現の学習、英作文・聞き取りの練習	
	第7回	Lesson 3 英文エッセイの精読	
	第8回	Lesson 4 英語漫画の読解、語彙・表現の学習、英作文・聞き取りの練習	
	第9回	Lesson 4 英文エッセイの精読	
	第10回	Lesson 5 英語漫画の読解、語彙・表現の学習、英作文・聞き取りの練習	
	第11回	Lesson 5 英文エッセイの精読	
	第12回	Lesson 6 英語漫画の読解、語彙・表現の学習、英作文・聞き取りの練習	
	第13回	Lesson 6 英文エッセイの精読	
	第14回	Lesson 7 英語漫画の読解、語彙・表現の学習、英作文・聞き取りの練習	
	第15回	Lesson 7 英文エッセイの精読	
授業概要	スーパーやチャーリー・ブラウンが登場する漫画Peanutsを題材としたテキストを用いる。各Lessonでは、英語漫画の読解、語彙・表現の学習、英作文・聞き取りの練習をした後で、漫画の内容に関連する英文エッセイを精読する。受講生が英文を訳し、担当教員が解説をするというやり方で授業を進める。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	予習として、次回学習する範囲の練習問題を解き、英文の和訳をしていくこと。その際には、わからない語句の意味を、辞書を引いて調べること。		
テキスト	外山晴子（著）Enjoy English with Charlie Brown and Friends 南雲堂 2,268円（税込）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	必ず予習をしてから授業に参加すること。授業ではできるだけ丁寧に解説するが、分からない点があれば遠慮なく質問してほしい。		
評価方法	授業への参加度25%、学期末試験75%		
参考文献			
備考			

講義科目名称：ライティング I (20310)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択
担当教員			
米野 裕子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	この授業では、各Unitで手紙とメールの読解から、英文作成上の文法事項を整理しつつ、短文単位でのライティング・スキルの向上とエッセイ作成上必要な基礎知識の定着をめざします。		
授業計画	第1回	Unit 1 Masashi' s Letter 1 現在形	
	第2回	Unit 2 Jack' s Letter 1 過去形	
	第3回	Unit 3 Masashi' s Letter 2 未来形	
	第4回	Unit 4 Jack' s Letter 2 進行形	
	第5回	Unit 5 Masashi' s Letter 3 完了形	
	第6回	Unit 6 Jack' s Letter 3 法助動詞	
	第7回	Unit 7 Masashi' s Letter 4 動詞・名詞・代名詞	
	第8回	Unit 8 Jack' s Letter 4 形容詞・副詞・前置詞	
	第9回	Unit 9 E-mail Exchange 1	
	第10回	Unit 10 E-mail Exchange 2 接続詞2	
	第11回	Unit 11 E-mail Exchange 3 関係詞	
	第12回	Unit 12 E-mail Exchange 4 間投詞	
	第13回	Unit 13 E-mail Exchange 5 比較	
	第14回	Unit 14 E-mail Exchange 6 仮定	
	第15回	Unit 15 総復習	
授業概要	テキストと補助資料を中心に授業を進めます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業では毎回、事前に予習しておくテキストのページや資料を指定し、それを順番に発表してもらうので、予め準備しておくこと。 授業で学習した箇所から、定期的に提出課題を出すので、提出日をまもり提出すること。		
テキスト	"New Friends" 「手紙とメールの読解で学ぶライティング・スキルズ入門」南雲堂 (1900円+税)		
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	英文法を強化しながら、日常生活でよく使う英文が書けるようになりたい、と思う学生に最適な授業です。		
評価方法	授業への参加度 (60%)、複数回の提出課題 (40%)		
参考文献			
備考			

講義科目名称：ライティングⅡ（20320）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
米野 裕子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	大学生生活に関連したトピックを基に、文法を抑えつつ、文の書き方から始め、エッセイやスピーチ等の長い文章を書く時の各パラグラフを確実に書けるようになることを目標とします。
授業計画	<p>第1回 Meeting New People at College</p> <p>第2回 Attending Classes</p> <p>第3回 Pastimes</p> <p>第4回 Volunteer Activities</p> <p>第5回 Environmental Problems</p> <p>第6回 Cultural Differences</p> <p>第7回 Studying Abroad</p> <p>第8回 Part-Time Jobs</p> <p>第9回 Youth and Politics</p> <p>第10回 Spending Holidays Abroad</p> <p>第11回 Job Hunting</p> <p>第12回 Information Technology</p> <p>第13回 Presentations 1</p> <p>第14回 Presentations 2</p> <p>第15回 Presentations 3</p>
授業概要	テキストと補助資料に添って授業をします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業では毎回、事前に予習しておくテキストのページや資料を指定し、それを順番に発表してもらうので、予め準備しておくこと。 授業で学習した箇所から、定期的に提出課題を出すので、提出日をまもり提出すること。
テキスト	Improving Your Writing 『表現力をつける英作文』 南雲堂（1600円+税） 補助教材 Writing for Presentations in English
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	作文力をしっかり身につけて、短いスピーチもできるようにになりたい、と願う学生に最適な授業です。
評価方法	授業への参加度（60%）、複数回の提出課題（40%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：リスニング I (20410)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
阿部 隆夫			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	就職や留学の際に必須となるTOEIC (pt. 4) とTOEFLの聞き取りの得点を上げる。北アメリカの英語とヨーロッパの英語との両方が聞こえるようにすること
授業計画	<p>第1回 TOEFL 問題1、Nos. 1-5 (以下、T 1 -5) 願書に関する教授と学生の会話、 Headway, Chap.1 (以下、H1) 大学のオリエンテーション</p> <p>第2回 T 6-10 生物の試験勉強、 H1 履修登録の問い合わせ</p> <p>第3回 T 11-16 水資源の講義、 H2演習の導入授業</p> <p>第4回 T 17-22 哲学の講義、 H2 アシスタント授業tutorialの会話</p> <p>第5回 T 23-28 植物学の講義 H3 環境学の授業</p> <p>第6回 T 29-34 経営管理学の講義、 H3 地球環境維持の協会</p> <p>第7回 TOEFL問題2、 T 1-5 課題に関する教授との会話、 H4 建築学の講演</p> <p>第8回 T 6-11 人類学の講義、 H4建築学の講義</p> <p>第9回 T 12-16 生物学の講義、 H5 学習方法の授業</p> <p>第10回 T 17-21 職員への問い合わせ、 H5 複合知性の授業</p> <p>第11回 T 22-27 天文学の講義、 H6 技術革新のスピーチ</p> <p>第12回 T 28-33 芸術学の講義、 H6 技術に関する電話の会話</p> <p>第13回 TOEFL 問題3、 T 1-5 教室に関する問い合わせ、 H7 言語と文化の議論</p> <p>第14回 T 6-11 ハチドリの講義、 H7 プリゼンテーションの仕方</p> <p>第15回 T12-17 映画製作の講義、 H8 地理学のプレゼンテーション</p>
授業概要	コンピュータ端末受験TOEFL聞き取りセクションを紹介し、準備、訓練方法を学ぶ。またUKを基本とした英語の聞き取りになれることで、相対的に北アメリカ大陸の英語をも聞き取れるように練習する。同時に両方の発音の違いを学ばせる。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	各回分の予習範囲の答え合わせと音読練習を済ませてから、授業に臨んでほしい。
テキスト	The Official Guide to the TOEFL Test 4th Edition (McGraw Hill, 2013), Emma and Gary Pathare, Headway Academic Skills: Listening, speaking and Study Skills (Oxford UP, 2011)
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	
評価方法	試験100%
参考文献	
備考	

講義科目名称：リスニングⅡ（20420）

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
横山 利夫			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	ビデオ教材については、内容を理解し、用意された質問に答えること。 ヒアリング教材については、冠詞、前置詞などの聞き漏らしを少なくすること
授業計画	<p>第1回 Call 911!</p> <p>第2回 I' m a little worried.</p> <p>第3回 It' s not that easy.</p> <p>第4回 Kayo, this is Brian.</p> <p>第5回 Life at Bernie' s Restaurant</p> <p>第6回 With Brian to the Rockefeller Center</p> <p>第7回 With Brian to Soho</p> <p>第8回 A Lesson from Mr. Altman</p> <p>第9回 A Double Date</p> <p>第10回 New York Streets</p> <p>第11回 Getting Ready to Act</p> <p>第12回 A Manhattan Halloween</p> <p>第13回 A Different Experience</p> <p>第14回 Forget it!, A Thanksgiving Dinner</p> <p>第15回 Forget it!, A Thanksgiving Dinner ①について：毎回以下のエピソードをビデオで見て、質問事項が書いてあるプリントで、内容を理解しているかどうか確認しながら授業を進める。 ②について：それぞれのユニットでは、時間、レイアウト、価格、指示、距離、比較、数量、場所、天候、仕事、電話、割合などの表現を学習します。</p>
授業概要	<p>①「Life in New York:使える英会話」というビデオ教材を用います。日本からニューヨークへ演劇の勉強のために留学した宮川香世さんが大都会で生活し、学び、友達と一緒に遊び、悩み、成長していく姿を描いたビデオです。ドラマとして楽しむと共に、リスニング力の向上をめざします。</p> <p>②5分間ヒアリング：日本人留学生の健と恵理がアメリカ人学生のDanやSusieと一緒に、キャンパスで繰り広げる生活の諸相です。各状況で話題にのぼっている内容に関して、情報を正確に聴き取るのに必要な基本的表現を学習します。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	日頃から、テレビ、ラジオなどで英語ニュースを聞くようにする。
テキスト	<p>① ビデオ教材：Life in New York 使える英会話</p> <p>② ヒアリング教材 Steve Jones, Tsukasa Matsui著 A Shorter Course in Listening 南雲堂 700円 ①はプリントを使用する。②については第1回目の授業で話す。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	間違ったらどうしようとか考えずに、積極的なプラス思考でやろう。
評価方法	期末試験と小テスト（60点）、平常点40点（主体的な授業参加を重視 2/3以上の出席、1回欠席5点減点、受講受理期間も出席を取る）。
参考文献	

講義科目名称：TOEICリスニング I (20461)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
北山 長貴			

授業のテーマ及び到達目標	1. 新TOEICの出題形式を理解すること、そしてリスニング能力の向上を図る。 2. 英語を聞き取るために必要な英語の音声的特徴を理解する。
授業計画	第1回 Transportation and Information 第2回 Instructions and Explanation 第3回 Eating and Drinking 第4回 Business Scene 第5回 English Vowels and Consonants (英語の母音と子音) 第6回 Strong and Weak forms of English words (強形と弱形) 第7回 Contractions and Elisions (短縮形と省略形) 第8回 Communication 第9回 Socializing 第10回 Invitation 第11回 Medical Treatment and Insurance 第12回 Cultural and Entertainment 第13回 Shopping 第14回 Sports and Exercise 第15回 Trouble and Claims
授業概要	・TOEICテストのリスニングセクションに対応できるリスニング練習を行います。・テキストは1回の授業で1課進みます。 ・授業では新TOEICの出題傾向、リーディングセクションとリスニングセクションの両方を紹介します。 ・またリスニング能力の向上に必要な英語の音声的特徴についても紹介します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	・授業中にわからなかった語句の意味を調べること。
テキスト	『TOEIC L&R テストへのファーストステップ―改訂新版―』成美堂 2000円(本体価格) ISBN 978-4-7919-3092-1
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	・教室に辞書を持ってきてください。出席は毎回取ります。 ・授業の最後にまとめのリスニング小テストを毎回行います。
評価方法	・小テスト(50%)、筆記試験(50%)
参考文献	
備考	

講義科目名称：TOEICリスニングⅡ（20462）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
松井 真人			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	TOEIC Listening & Reading Testのリスニングセクションと同じ形式の問題を解くことによってTOEICの問題に慣れながら、英語リスニング力を高めること。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Scene 1 Travel</p> <p>第3回 Scene 2 In the Office</p> <p>第4回 Scene 3 Cooking</p> <p>第5回 Scene 4 Recreation</p> <p>第6回 Scene 5 Office Life</p> <p>第7回 Scene 6 Travel</p> <p>第8回 Scene 7 Job Interview</p> <p>第9回 Scene 8 Leisure Time</p> <p>第10回 Scene 9 On the Job</p> <p>第11回 Scene 10 Supermarket</p> <p>第12回 Scene 11 At the Office</p> <p>第13回 Scene 12 Daily Life</p> <p>第14回 Scene 13 Money</p> <p>第15回 Scene 14 Business</p>
授業概要	毎回、リスニングをする際に注意すべきポイントを担当教員が解説した後、受講生はTOEIC形式の問題を解いていく。その後、答え合わせをしながら、担当教員が問題の解説をする。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	復習として、授業で学習した箇所の音声を繰り返し聴くこと。わからなかった語句の意味をよく覚えること。
テキスト	Matthew Wilson・鶴岡公幸（著）『QUICK EXERCISES FOR THE TOEIC L&R TEST 500 Listening』松柏社 1,404円（税込）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業ではできるだけ詳しく問題の解説をしていきたい。受講生の皆さんは、テキストの問題を収録した音声ファイル（無料でダウンロード可能）、ラジオ、テレビ、インターネット、市販教材などを利用して、授業以外の時間にもできるだけ多く英語を聞く努力をしてほしい。
評価方法	授業への参加度25%、学期末試験75%
参考文献	授業中に適宜資料を配布する。
備考	

講義科目名称：英文法 I (20510)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修・平成31年度入学生は教職必修
担当教員			
松井 真人			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	本学英語英文学科で専門的な勉強する上で必要な英文法の知識を身につけること。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	品詞	
	第3回	時制・進行形	
	第4回	基本5文型	
	第5回	現在完了	
	第6回	過去完了・未来完了	
	第7回	法助動詞	
	第8回	仮定法	
	第9回	関係節	
	第10回	関係副詞	
	第11回	分詞構文	
	第12回	冠詞	
	第13回	不定詞	
	第14回	受け身形	
	第15回	使役形	
授業概要	担当教員がテキストに沿って文法項目の解説をした後で、受講生は練習問題に取り組む。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	予習として、次回学習するテキストの範囲の解説をよく読み、練習問題も解いてみる。復習として、わからなかった文法事項をよく覚えること。		
テキスト	藤田直也（著）『クラスで読む英文法－リメディアル学習対応－』朝日出版社 1,944円（税込）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	できるだけ丁寧に解説していくが、分からない点があれば遠慮なく質問してほしい。また、しっかり予習と復習をして、授業で学んだことを徹底的に覚え、英文法の知識を増やしてほしい。		
評価方法	授業への参加度25%、試験75%		
参考文献	授業中に適宜資料を配布する。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
阿部 隆夫			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	英語圏で文法を学習するように英語のままの文法用語で理解し文法の説明ができるようになること		
授業計画	第1回	単純現在と現在進行形、過去時制（の問題練習、以下同様） 以下主教材の予定（副教材では下記問題集を毎回1ページずつ15ページまで進む）	
	第2回	現在完了と単純過去の比較、過去完了（の問題練習、以下同様）	
	第3回	未来時制、助動詞（能力・許可・要求）	
	第4回	助動詞（可能性・命令・義務）	
	第5回	不定詞と動名詞の比較	
	第6回	受動態、動詞句	
	第7回	間接話法	
	第8回	仮定法、不可算名詞と可算名詞	
	第9回	所有詞、指示語	
	第10回	数量詞、比較級・最上級	
	第11回	同程度を示す形容詞、副詞	
	第12回	文接続の副詞、前置詞と名詞句の接続	
	第13回	前置詞句、接続語	
	第14回	文の接続、関係節	
	第15回	時、場所、理由の表現、語句の省略方法	
授業概要	中級程度の文法項目を中心に取り上げ、それを英語圏で文法を学習するように英語のままの文法用語で理解し文法の説明ができるようになる程度まで練習する。その過程で英語文法の素養を育む。各自が文法を暗記するよりも、言語認識の観点から自分の言葉で文法の仕組みを説明できるレベルを目指す。また副教材では、日本語発想の文法・語彙の違いを問題形式で習う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	毎回二章分の小テストを行うので、事前に問題集の答えを確認したうえで授業に臨んでほしい。		
テキスト	Norman Coe, Oxford Living Grammar, Intermediate (Oxford UP, 2012), 副教材Takao Abe, Common Mistakes of English (非売品のため無料配布)		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	設問と答え・解説が明快でTOEFLやTOEICにも応用できる文法項目別構成の問題集を使うので、毎回1, 2単元分の予習が必要となる。		
評価方法	毎回の小テスト（40%）と期末試験（60%）で判定する。		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
渡邊 真由美			
開放（外国語）			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	新聞や雑誌に書かれている英語を読み、内容が理解できるようになる。さらには、英文の内容を日本語で手短かにまとめることができるようになる。		
授業計画	第1回	イントロダクション 授業の進め方、評価方法、予習の仕方についての説明	
	第2回	新聞記事を読む 政治・映画・書評・科学・環境・ファッション・LGBTなどの国際的に広く報道されている記事を一読読む。	
	第3回	新聞記事を読む 政治・映画・書評・科学・環境・ファッション・LGBTなどの国際的に広く報道されている記事を一読読む。	
	第4回	新聞記事を読む 政治・映画・書評・科学・環境・ファッション・LGBTなどの国際的に広く報道されている記事を一読読む。	
	第5回	新聞記事を読む 政治・映画・書評・科学・環境・ファッション・LGBTなどの国際的に広く報道されている記事を一読読む。	
	第6回	新聞記事を読む 政治・映画・書評・科学・環境・ファッション・LGBTなどの国際的に広く報道されている記事を一読読む。	
	第7回	新聞記事を読む 政治・映画・書評・科学・環境・ファッション・LGBTなどの国際的に広く報道されている記事を一読読む。	
	第8回	新聞記事を読む 政治・映画・書評・科学・環境・ファッション・LGBTなどの国際的に広く報道されている記事を一読読む。	
	第9回	新聞記事を読む 政治・映画・書評・科学・環境・ファッション・LGBTなどの国際的に広く報道されている記事を一読読む。	
	第10回	新聞記事を読む 政治・映画・書評・科学・環境・ファッション・LGBTなどの国際的に広く報道されている記事を一読読む。	
	第11回	新聞記事を読む 政治・映画・書評・科学・環境・ファッション・LGBTなどの国際的に広く報道されている記事を一読読む。	
	第12回	新聞記事を読む 政治・映画・書評・科学・環境・ファッション・LGBTなどの国際的に広く報道されている記事を一読読む。	
	第13回	新聞記事を読む 政治・映画・書評・科学・環境・ファッション・LGBTなどの国際的に広く報道されている記事を一読読む。	
	第14回	新聞記事を読む 政治・映画・書評・科学・環境・ファッション・LGBTなどの国際的に広く報道されている記事を一読読む。	
	第15回	新聞記事を読む 政治・映画・書評・科学・環境・ファッション・LGBTなどの国際的に広く報道されている記事を一読読む。	
授業概要	新聞や雑誌などの記事を予習として読んできてもらって、授業中にその記事についての問題を解いてもらう。問題としては、訳・内容確認・内容を要約するなど。それらの問題を30分ほどで解き、同授業内で他己採点する。他己採点が終わった解答を一時回収。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	次の授業に扱う記事を事前に配布します。よく読みこんで授業中に質問に答えられるようにしておくこと。		
テキスト	毎回、翌週に使用する記事を配布。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	事前に渡す記事を必ず読んで授業に出席すること。質問に対して「わかりません」と答えることがないようにしっかり準備をして授業に参加すること。文法の詳しい説明をしている時間的余裕はありません。ある程度の文法の知識を身につけていることが望ましい。		
評価方法	毎回の解答を見せてもらい評価とする。5回以上欠席した場合、単位の認定は行わない。		
参考文献			

講義科目名称：イギリス文学史（20710）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修・教職必修
担当教員			
小林 亜希			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. イギリス文学において使用されている様々な英語表現について理解している。 2. イギリス文学で描かれている国・地域の文化・歴史について理解している。 3. 代表的なイギリス文学について理解している。
授業計画	<p>第1回 ガイダンスーイギリス文学とは何か</p> <p>第2回 古英語・中英語の文学</p> <p>第3回 ルネサンスの詩</p> <p>第4回 シェイクスピア（1）ー詩について</p> <p>第5回 シェイクスピア（2）ー演劇について</p> <p>第6回 清教徒革命～王政復古期の文学（1）ージョン・ダンを中心に</p> <p>第7回 清教徒革命～王政復古期の文学（2）ーミルトンを中心に</p> <p>第8回 小説の誕生（1）ーアフラ・ベインからデフォーまで</p> <p>第9回 小説の誕生（2）ー『ガリヴァー旅行記』を中心に</p> <p>第10回 ロマン主義の詩</p> <p>第11回 ヴィクトリア朝の小説（1）ーオースティン、ブロンテ姉妹を中心に</p> <p>第12回 ヴィクトリア朝の小説（2）ーディケンズ、コナン・ドイルを中心に</p> <p>第13回 両世界大戦間の文学</p> <p>第14回 第二次世界大戦後の文学</p> <p>第15回 まとめー21世紀の文学</p>
授業概要	イギリス文学の歴史を、時代毎に代表的な作家のテキスト（詩、演劇、小説）の一部を読みながら概観します。英語表現に留意することは勿論ですが、文学テキストだけでなく、映画や絵画等の多様な文化表象を手がかりに、歴史と文学のダイナミズムを捉えてみたいと思います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で扱うイギリスの歴史を予め調べておくこと。 ・授業で扱った文学作品を図書館で調べて読むこと。
テキスト	参考資料を適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回コメントシートに感想や質問を書いてもらい、次の授業で受講者の関心に答えることで、双方向的な授業を目指します。 ・毎回参考図書を紹介し、積極的に図書館を活用してください。
評価方法	試験（100%）。授業回数数の3分の2以上の出席が条件です。
参考文献	『イギリスの歴史が2時間でわかる本』、河出書房新社（670円）
備考	

講義科目名称：アメリカ文学史（20720）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修・教職必修
担当教員			
渡邊 真由美			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>アメリカ合衆国における文学の成立と発展を歴史的に学び、英語で書かれた文学表現の理解を深め、アメリカ合衆国の文化について理解することで中学校及び高等学校における外国語の授業に生かすことができるようにする。</p> <p>1) 文学作品において使用されている様々な英語表現について理解している。 2) 文学作品で描かれている、英語が使われている国・地域の文化について理解している。 3) 英語で書かれた代表的な文学について理解している。</p>
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン 授業の進め方、評価方法の説明。アメリカの地理的特質について</p> <p>第2回 植民地時代の文学および独立革命期の文学 説教文学とベンジャミン・フランクリン</p> <p>第3回 独立戦争期 政治的パンフレット、フィリップ・フレノーなど</p> <p>第4回 アメリカン・ルネサンス（1） ラルフ・ウォルド・エマソン、ヘンリー・デイヴィッド・ソロー、ハーマン・メルヴィル</p> <p>第5回 アメリカン・ルネサンス（2） ウォルト・ホイットマン、ストウ夫人、エミリー・ディキンソン</p> <p>第6回 南北戦争と西部の文学 マーク・トウェイン</p> <p>第7回 リアリズム文学 ウィリアム・ディーン・ハウエルズとヘンリー・ジェイムズ</p> <p>第8回 自然主義文学 ステイヴン・クレイン、セオドア・ドライサー、アップトン・シンクレア</p> <p>第9回 女性文学 セアラ・オウン・ジュエット、ケイト・ショパン、ウィラ・キャザー、ガートルード・スタイン</p> <p>第10回 「失われた世代」 アーネスト・ヘミングウェイ、スコット・フィッツジェラルド</p> <p>第11回 南部文学 ウィリアム・フォークナー、ゾラ・ニール・ハーストン、トルーマン・カポーティ</p> <p>第12回 演劇 ユージーン・オニール、テネシー・ウィリアムズ、アーサー・ミラー</p> <p>第13回 50年代文学とビートジェネレーション J.D. サリンジャー、ジャック・ケルアック</p> <p>第14回 ポスト・モダニズム カート・ヴォネガット、トマス・ピンチョン</p> <p>第15回 マイノリティの文学 アジア系、インディアン、黒人の文学 定期試験</p>
授業概要	<p>アメリカ文学の成立期から現代までの展開を概観する。アメリカ文学をアメリカ合衆国の歴史的背景と関連付け、白人男性によって書かれたものだけでなく、女性やもと黒人奴隷、インディアンなどによって書かれた文学作品からアメリカ合衆国における多様性を学ぶ。また、適宜、配布予定の著名な文学作品の抜粋を読み、英語表現を学ぶ。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>授業中に紹介した本をできる限り翻訳でもよいので読むこと。</p>
テキスト	<p>西田実 『アメリカ文学史』成美堂 2,400円＋税</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>授業のなかで紹介した作品のうち一作でもよいので、実際に読んで、アメリカ文学が内包している問題を考えてみてください。</p>
評価方法	<p>試験 10回以上の出席を単位認定の条件とする。10回の小テストを行う（毎回10点満点）。このテストの総計が50点を越えた場合に限り、定期試験の受験を認める。</p>
参考文献	<p>亀井俊介『アメリカ文学史』（全3巻）南雲堂、 渡辺利雄『講義 アメリカ文学史』（入門編）研究社</p>

講義科目名称：イギリス文学作品研究（20730）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小林 亜希			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>1. 三つの文学ジャンル（詩、演劇、小説）を読むことを通して文学テキストを多様なコンテキストから解釈する方法を学び、イギリスの思想、歴史、文化についての基本的な理解を深める。</p> <p>2. イギリス文学において使用されている様々な英語表現について理解している。</p> <p>3. イギリス文学で描かれている国・地域の文化について理解している。</p> <p>4. 代表的なイギリス文学について理解している。</p>
授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス：「解釈」とは何か</p> <p>第2回 詩①—BlakeとWordsworth：ロマン主義の詩</p> <p>第3回 詩②—Blake の ‘The Chimney Sweeper’ を読む</p> <p>第4回 詩③—詩と絵画について</p> <p>第5回 詩④—Shakespeare の Sonnet を読む</p> <p>第6回 演劇①—演劇とは何か</p> <p>第7回 演劇②—映画『ハムレット』の鑑賞と分析：物語の構造</p> <p>第8回 演劇③—映画『ハムレット』の鑑賞と分析：独白の効果</p> <p>第9回 演劇④—『ハムレット』における「理性」と「情熱」</p> <p>第10回 演劇⑤—『ハムレット』における「生きるべきか、死ぬべきか」の意味</p> <p>第11回 『私を離さないで』を読む①—ディストピア小説とは何か</p> <p>第12回 『私を離さないで』を読む②—一人称の語りの効果</p> <p>第13回 『私を離さないで』を読む③—「記憶」の問題</p> <p>第14回 『私を離さないで』を読む④—文学とテクノロジーの関係</p> <p>第15回 まとめ：レポートの書き方</p>
授業概要	詩、演劇、小説の中から、それぞれ代表的な作品を取り上げ、文学的修辞法や文化的コンテキストに留意しながら、テキストの一部を読み進めていきます。講読と講義を織り交ぜながら進める予定です。扱う詩人は、Shakespeare、Wordsworth、Blakeです。演劇は、William Shakespeare (1564-1616) のHamlet(1602)を扱い、映画を見ながら分析します。小説は、Kazuo Ishiguro (1954-) の Never Let Me Go (2005)を扱います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	翻訳でもよいので、授業で扱う文学作品を通読すること。
テキスト	適宜資料を配付します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> 扱うテキストは事前に配布しますので、予習して授業に臨んで下さい。 翻訳でもよいので、事前に『ハムレット』と『私を離さないで』を通読しておくとう理解が深まります。 毎回リアクション・ペーパーを配布するので、疑問・質問を書いてください。次週の授業で答えます。 受講者の関心・理解に応じて、進度、内容は変更することがあります。
評価方法	レポート（100%）。授業回数の3分の2以上の出席が条件です。
参考文献	<p>1. 平井 正徳(編)『イギリス名詩選』（岩波文庫）929円</p> <p>2. ウィリアム・シェイクスピア（河合祥一郎訳）『新訳ハムレット』（角川文庫）518円</p> <p>3. カズオ・イシグロ（土屋政雄訳）『私を離さないで』（ハヤカワepi文庫）864円</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
渡邊 真由美			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	①英語で書かれた小説を正しく読むことができるようにする。そのために単語をおろそかにせず、構文を理解しながら読むようする。 ②時代背景を考慮に入れ、作品世界を理解できるようにする。 ③アメリカ文学の短篇を読んで、その多様性を理解する。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン 授業の進め方、評価方法について</p> <p>第2回 ケイト・ショパンについて。「デジレ・ベイビー」を読む ケイト・ショパンについて、南部社会における黒人の歴史の概観。 1ページ。</p> <p>第3回 「デジレ・ベイビー」を読む 2, 3ページ。</p> <p>第4回 「デジレ・ベイビー」を読む 4, 5ページ。</p> <p>第5回 「デジレ・ベイビー」を読む 6, 7, 8ページ。</p> <p>第6回 「デジレ・ベイビー」を読む 9, 10ページ。「デジレ・ベイビー」における主題を巡ってディスカッションを行う。小レポートの作成について。</p> <p>第7回 トルーマン・カポーティとゴシック小説 「ミリアム」を読む トルーマン・カポーティについて。ゴシック小説とは何か。 17ページ。</p> <p>第8回 「ミリアム」を読む 18, 19ページ。</p> <p>第9回 「ミリアム」を読む 20, 21ページ。</p> <p>第10回 「ミリアム」を読む 22, 23ページ。</p> <p>第11回 「ミリアム」を読む 24-26ページ。</p> <p>第12回 「ミリアム」を読む 27-29ページ。</p> <p>第13回 「黄色い壁紙」を読む 30-32ページ。</p> <p>第14回 「黄色い壁紙」を読む 33, 34ページ。</p> <p>第15回 ディスカッションとレポートの書き方 「黄色い壁紙」の主題についてディスカッションする。近代のゴシック小説とは何か、を考える。</p>
授業概要	ケイト・ショパンの「デジレの赤ちゃん」とトルーマン・カポーティの「ミリアム」の2作品を精読していく。「デジレの赤ちゃん」は、さまざまな伏線が張り巡らされている。その伏線を拾い上げ、どのように解消されていくのかを読み解く。さらに、黒人性を持つとはどういう意味を持つのかを考える。「ミリアム」を一回の2-3ページずつ読む。都会の孤独な老人が少女と知り合うことで、不思議な世界に誘われる物語だが、現代におけるゴシック小説とは何か、を考えながら読み進める。 授業では、指名し訳をつけてもらう。さらに面白いと思ったところ、作品を読み解くうえで重要だと思ったことについて説明してもらい、討論する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次回に読む箇所を指定します。必ず読んでくること。わからない単語があれば調べ、その箇所に描かれている場面がどのような情景なのか、自分はどのように感じるのかを言語化できるようにしてこるこ。
テキスト	授業中に配布します。 Kate Chopin, "Desiree's Baby" (1893) Truman Capote, "Miriam" (1945)
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業では、予習をしてきてもらって、それぞれの訳を発表してもらいます。他の人と比較することで、自分がどうしてその日本語を選択するにいたったか、ということを考えることになると思います。そこから、自分なりの作品に対する解釈が生まれてくるはずです。
評価方法	「デジレ・ベイビー」と「ミリアム」についてそれぞれレポートを提出80%。授業への積極的な取り組み20%。5回以上欠席した場合、単位の認定は行わない。

講義科目名称：英米児童文学作品研究（20750）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択必修
担当教員			
井辻 朱美			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	今や児童文学の話題作品の多くがファンタジーです。ファンタジーとは何か、『不思議の国のアリス』から『ハリー・ポッター』にいたるこの文学の現代的意味あいとその可能性を考えます。
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 『不思議の国のアリス』（レイス・キャロル）と十九世紀</p> <p>第3回 『不思議の国のアリス』の特徴と映像化</p> <p>第4回 『ピーターパン』（J・M・バリ）作者の人生と作品成立の経緯</p> <p>第5回 『ナルニア国ものがたり』（C・S・ルイス）の世界観</p> <p>第6回 『ナルニア国ものがたり』とキリスト教</p> <p>第7回 『指輪物語』（J・R・R・トールキン）ファンタジー史上の位置づけ</p> <p>第8回 『指輪物語』第二世界創造とゲームなどへの影響</p> <p>第9回 ファンタジーの中の空間論</p> <p>第10回 博物館という仕掛け</p> <p>第11回 映画「ナイト・ミュージアム」のもたらしたもの</p> <p>第12回 ミニチュアと特撮の心理学</p> <p>第13回 「ハリー・ポッター」シリーズ（J・K・ローリング）とは何か</p> <p>第14回 「ハリー・ポッター」に見られる新しい魔法の心理学</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	<p>ファンタジーに特有のモチーフやトピックを抽出し、作品をクロスオーバー的に見ていきます。項目としては「タイム・ファンタジー」「自然界のエレメント（地水火風）と無意識」「家屋の物語」「編集される空間——博物館ファンタジー」「サイコ・ファンタジー」「死後譚と輪廻転生」「魔法ファンタジー」「人工生命（人形・ロボット・フィギュア）と身体論」「杵物語」などを予定していますが、まずは、原点の『不思議の国のアリス』『ピーター・パン』から入ります。</p> <p>その他、J・R・R・トールキン、C・S・ルイス、U・K・ル＝グウィンなどモダン・ファンタジーの代表的作家のモチベーションや方法論なども見る予定ですが、今年度は重点的に『ハリー・ポッター』と現代のファンタジーを取り上げます。映像を多く使う予定です。</p>
実務経験及び授業の内容	英米ファンタジー翻訳家としての150冊以上の実績をもとに、テキストを丁寧に読み込みたい。
時間外学習	シラバスに予告した本を何冊か読んでおいてください。
テキスト	プリント配布
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自分の感性、ものの見方を大切にして作品と向き合ってください。今年度の児童文学の流れを中心に、いくつかの作品に絞ってゆきます。進行は昨年のアンケートをふまえ、やや作品数をへらし、ゆっくりにしたいと思います。
評価方法	10月末提出のレポートによります。レポートに取りあげる作品は書物に限らず、アニメ、コミック、映画なども含めます。基準としては、レポート（75%）、授業への参加度（25%）です。
参考文献	主にプリントでそのつど紹介
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小林 亜希			
開放（外国語）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 基本的な語彙と文法に留意しながら、英語を正確に読む基礎を身につける。 2. 文化、歴史、修辞技法などに留意しながら、文学テクストを読む基礎を身につける。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 英文読解の基礎</p> <p>第3回 物語論(Narratology) 入門</p> <p>第4回 The Invisible Japanese Gentlemanを読む①—準動詞を捉える</p> <p>第5回 The Invisible Japanese Gentlemanを読む②—コンテキストを捉える</p> <p>第6回 The Invisible Japanese Gentlemanを読む③—誰が見ているのか？</p> <p>第7回 The Invisible Japanese Gentlemanを読む④—何を見ているのか？</p> <p>第8回 The Invisible Japanese Gentlemanの解釈について</p> <p>第9回 Family Supper を読む①—語りについて</p> <p>第10回 A Family Supper を読む②—「会話」を読む</p> <p>第11回 A Family Supper を読む③—「イメージ」について</p> <p>第12回 A Family Supper を読む④—「記憶」の問題</p> <p>第13回 A Family Supper を読む⑤—エンディングの意味</p> <p>第14回 ディスカッション：A Family Supperをめぐって</p> <p>第15回 まとめ：レポートの書き方について</p>
授業概要	Graham Greene (1904-1991)の‘The Invisible Japanese Gentleman’と Kazuo Ishiguro(1954-)の短編小説‘A Family Supper’を精読します。一文ずつ訳読しながら読み進め、重要な英語表現、語りの技法、文化的背景を解説します。また、物語論(Narratology)等の文学理論を援用した分析の方法についても講義します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回指定された箇所について、辞書を丁寧に引いて予習すること。 ・授業で解説した文法事項について、辞書や文法書を活用して復習すること。
テキスト	ハンドアウトを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> ・辞書を丁寧に引いて予習してください。 ・図書館とインターネットを積極的に活用してください。 ・毎回リアクション・ペーパーを配布するので、質問を書いてください。次週の授業で答えます。 ・受講者の関心・理解に応じて、進度は変わることがあります。
評価方法	授業での発表（20％）レポート（80％）。授業回数の3分の2以上の出席が条件です。
参考文献	参考書を適宜紹介します。
備考	

講義科目名称：英米文学基礎演習 I (20810)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
三枝 和彦			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	イギリス文学史における主要小説の冒頭を読むことによって、英文読解力の向上を図ると同時に、小説を鑑賞するための基礎力を身につけるための授業です。 具体的には次の目標を達成することを目指します。 (1) 文学テキストを正確に読解できるようになる。 (2) 文学テキストを分析・考察できるようになる。 (3) 小説を鑑賞するための基礎的な知識を身につける。
授業計画	第1回 オリエンテーション (授業の進め方や評価など) 第2回 Daniel Defoe, Robinson Crusoe (1719) 第3回 Jonathan Swift, Gulliver's Travels (1726) 第4回 Samuel Richardson, Pamela, or Virtue Rewarded (1740-41) 第5回 Laurence Sterne, Tristram Shandy (1760-67) 第6回 Jane Austen, Pride and Prejudice (1813) 第7回 Charles Dickens, David Copperfield (1849-50) 第8回 Lewis Carroll, Alice's Adventures in Wonderland (1865) 第9回 Thomas Hardy, Tess of the D'Urbervilles (1891) 第10回 James Joyce, A Portrait of the Artist as a Young Man (1916) 第11回 Virginia Woolf, Mrs Dalloway (1925) 第12回 Evelyn Waugh, Brideshead Revisited (1945) 第13回 George Orwell, Animal Farm (1945) 第14回 William Golding, Lord of the Flies (1954) 第15回 振り返りとレポート作成について
授業概要	授業ごとに異なる作品の冒頭数ページを読んでいきます。担当者が訳読とコメントを発表し、それに基づき議論や講義を行います。毎回コメントペーパーを書いてもらい、次回授業でフィードバックします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	辞書を丹念に引き、じっくりと読んでください。特に担当者には入念な準備が求められます。
テキスト	テキスト・資料を配布します。
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	
評価方法	コメントペーパー (10%)、発表と発言による授業への参加 (30%)、レポート (60%)
参考文献	適宜紹介します。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
渡邊 真由美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	アメリカ合衆国の初期の文学作品、Washington Irving（ワシントン・アーヴィング）の_Sketch Book_（『スケッチ・ブック』）から“Rip Van Winkle”（「リップ・ヴァン・ウインクル」）を読む。正しく英語を読めるようにすることに主眼をおきつつ、作品中に表れる伏線や比喩、そして時代の変化を読み解いていく。		
授業計画	第1回	イントロダクション 授業の進め方についての説明、ワシントン・アーヴィングについて	
	第2回	「リップ・ヴァン・ウインクル」を読む 25ページ	
	第3回	「リップ・ヴァン・ウインクル」を読む 26ページ	
	第4回	「リップ・ヴァン・ウインクル」を読む 27-28ページ	
	第5回	「リップ・ヴァン・ウインクル」を読む 29-30ページ	
	第6回	「リップ・ヴァン・ウインクル」を読む 31-32ページ	
	第7回	「リップ・ヴァン・ウインクル」を読む 33-34ページ	
	第8回	「リップ・ヴァン・ウインクル」を読む 35-36ページ	
	第9回	「リップ・ヴァン・ウインクル」を読む 37-38ページ	
	第10回	「リップ・ヴァン・ウインクル」を読む 39-40ページ	
	第11回	「リップ・ヴァン・ウインクル」を読む 41-42ページ	
	第12回	「リップ・ヴァン・ウインクル」を読む 43-44ページ	
	第13回	「リップ・ヴァン・ウインクル」を読む 45-46ページ	
	第14回	「リップ・ヴァン・ウインクル」を読む 47-48ページ	
	第15回	ディスカッションと レポートの書き方について 「リップ・ヴァン・ウインクル」について、ディスカッションを行う。 また、レポートにおけるテーマの見つけ方、論述の仕方、表記の問題などについて。	
授業概要	独立革命前夜のアメリカでのんきに暮らすリップが、小人と共に遊び疲れて寝てしまうと、一晩で30年が経過していた——アメリカ版浦島太郎と呼ばれている作品だが、独立革命の前と後での社会環境の違いや、比喩表現にあふれ、かつ緻密な構成を持っているこれらを丁寧に、正確に読んでいく。授業では、毎回予習をしてきてもらって、指名して訳をつけてもらう。さらに、アメリカ独立革命についても、理解を深める。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	次回、授業で扱う箇所を指示します。その箇所について、わからない単語があれば調べ、英文の意味が分かるようにしていただくこと。		
テキスト	Washington Irving, __The Sketch-Book__ 平井正徳註、開文社出版英文選書		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	小説を読む、ということの楽しさを感じることでできる作品です。さらに、英語のお手本として長く日本の英語の教科書にも採用されてきました。楽しく英語の小説を読んでください。		
評価方法	レポート60%。積極的な授業参加40%。		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
渡邊 真由美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	①英語で書かれた小説を正しく読めるようにする。 ②時代背景に注意しながら、アンダスン的小説世界を理解できるようにする。 1) アンダスンのモダニズム的と評価された表現方法に注意し、2) 「貧乏白人」がどのような人々を指すのかを理解し、経済的成功がアメリカ人にもたらす影響についてアンダスンがどのように描いているのかを考える。
授業計画	第1回 イン트로ダクション 授業の進め方、評価方法などについての説明 第2～28回 作品購読 担当者を決めて、あらすじを発表してもらおう。また、参加者それぞれの意見を発表してもらおう。1-2文の英文を翻訳してもらい、英文読解も行う。 第29回 プレゼンテーション・ディスカッション それぞれのレポートテーマについて発表し、意見交換を行う。 第30回 レポートの書き方について レポートの書き方についての説明
授業概要	シャーウッド・アンダスンの『貧乏白人』を読みます。この作品は、「貧乏白人」と位置づけられるアメリカ社会における下層階級出身の青年が、発明家として成功し、やがてその成功について懐疑の念を抱くようになるまでが描かれています。「貧乏白人」と呼ばれた白人の最下層の人々について知ることで、アメリカ社会にさまざまな階層の人々がいることを理解し、経済的成功がよきことである、というアメリカ社会に蔓延していた風潮をアンダスンがどのように考えていたのかを参加者全員で考えていきます。 授業の進め方は、参加者に毎回各章ごとにあらすじをまとめてきてもらい、どのような点が面白かったのか、あるいはテーマと深くかかわっているのかを発表してもらいます。その後、討論していきます。アメリカ社会の背景や「貧乏白人」について基本的なことを説明していきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	全員が授業で読む部分を読んで授業に参加し、描かれている内容について自分の考えを明確にできるようにしてこること。
テキスト	Sherwood Anderson, Poor White. Standard Pubns. Inc.,
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	これまで読んできた小説の違いに戸惑うかもしれませんが、現代アメリカ社会を批判した小説として大変にすぐれた作品です。楽しんで読んでください。
評価方法	授業への積極的な参加 20% レポート 80% 25回以上、授業に出席した場合のみ単位の認定を行う。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
横山 利夫			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	テキストにある多くの例文を通して正しい英語の語法を学ぶこと。		
授業計画	第1回	授業についてのガイダンス及び「英文誤り発見クイズ」	
	第2回	現代英語の語法で、自分が苦手とする項目、または、関心ある項目をテキストから選んで、例文などに訳を付けたプリントを準備し、授業で説明してもらう。	
	第3回	現代英語の語法で、自分が苦手とする項目、または、関心ある項目をテキストから選んで、例文などに訳を付けたプリントを準備し、授業で説明してもらう。	
	第4回	現代英語の語法で、自分が苦手とする項目、または、関心ある項目をテキストから選んで、例文などに訳を付けたプリントを準備し、授業で説明してもらう。	
	第5回	現代英語の語法で、自分が苦手とする項目、または、関心ある項目をテキストから選んで、例文などに訳を付けたプリントを準備し、授業で説明してもらう。	
	第6回	現代英語の語法で、自分が苦手とする項目、または、関心ある項目をテキストから選んで、例文などに訳を付けたプリントを準備し、授業で説明してもらう。	
	第7回	現代英語の語法で、自分が苦手とする項目、または、関心ある項目をテキストから選んで、例文などに訳を付けたプリントを準備し、授業で説明してもらう。	
	第8回	現代英語の語法で、自分が苦手とする項目、または、関心ある項目をテキストから選んで、例文などに訳を付けたプリントを準備し、授業で説明してもらう。	
	第9回	現代英語の語法で、自分が苦手とする項目、または、関心ある項目をテキストから選んで、例文などに訳を付けたプリントを準備し、授業で説明してもらう。	
	第10回	現代英語の語法で、自分が苦手とする項目、または、関心ある項目をテキストから選んで、例文などに訳を付けたプリントを準備し、授業で説明してもらう。	
	第11回	現代英語の語法で、自分が苦手とする項目、または、関心ある項目をテキストから選んで、例文などに訳を付けたプリントを準備し、授業で説明してもらう。	
	第12回	現代英語の語法で、自分が苦手とする項目、または、関心ある項目をテキストから選んで、例文などに訳を付けたプリントを準備し、授業で説明してもらう。	
	第13回	現代英語の語法で、自分が苦手とする項目、または、関心ある項目をテキストから選んで、例文などに訳を付けたプリントを準備し、授業で説明してもらう。	
	第14回	現代英語の語法で、自分が苦手とする項目、または、関心ある項目をテキストから選んで、例文などに訳を付けたプリントを準備し、授業で説明してもらう。	
	第15回	現代英語の語法で、自分が苦手とする項目、または、関心ある項目をテキストから選んで、例文などに訳を付けたプリントを準備し、授業で説明してもらう。	
授業概要	It's often raining here. I'll phone you when I will arrive. I came here for study English. The life is difficult. I'd like to go and visit you next summer. When you come, take your picnic lunch. I went swimming to the river. I'll see you a few day これらの英文には誤りがあります。みなさんはそれぞれの誤りを指摘できますか。英語学習において、たとえば、仮定法がよく理解できない、完了形の使い方がわからない、分詞構文が苦手という方が多いのではないのでしょうか。現代英語の語法で、自分が苦手とする項目、または、関心のある項目をテキストから選んで、例文などをプリントして、授業で説明してもらいます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業の予習をしっかりすること。		

テキスト	Michael Swan 著 Practical English Usage, Fourth Edition, オックスフォード大学出版局 2016年 4500円くらい このテキストは2年次の演習でも使用する。
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	英語を外国語として学ぶ私たちは単純な誤りでも気づかないことがよくあります。テキストにある多くの例文を通して正しい英語の語法を学びましょう。
評価方法	主体的な授業参加50点 (授業中の積極的な質問や発言、出席2/3以上で、1回欠席5点減点、受講受理期間も出席を取る)、プリントを準備しての説明50点。
参考文献	
備考	

講義科目名称：英語学基礎演習Ⅱ（21020）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
松井 真人			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	認知言語学の理論的枠組みで、英語と日本語の意味及び文法の様々な側面について理解すること。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	空はなぜ青いのか？	
	第3回	「ものの見方」と意味	
	第4回	プロトタイプ	
	第5回	抽象化とスキーマ	
	第6回	イメージ・スキーマ	
	第7回	意味のネットワーク	
	第8回	メタファー	
	第9回	メトニミー	
	第10回	概念メタファー	
	第11回	方向性のメタファー：「上下」のメタファー	
	第12回	「色」とことば	
	第13回	構文と意味	
	第14回	ことばのダイナミズム	
	第15回	ことば、文化、普遍性	
授業概要	認知言語学の基本的な考え方は、言語の仕組みには人の認知（心の働き）が反映しているというものである。この授業では、このような認知言語学的な視点から、英語と日本語の意味や文法の諸相を考察していく。授業は演習形式で行う。毎回、当番の学生がテキストの内容の要約を発表し、担当教員が解説や補足説明を加える。最後に内容について全員で議論する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	予習として、次回学習するテキストの範囲をよく読み、わからない語句を辞（事）典等で調べてくること。そしてテキストの内容に関する自分の意見や疑問点を明確にしておくこと。		
テキスト	谷口一美（著）『学びのエクササイズ 認知言語学』ひつじ書房 1,296円（税込）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	英語や日本語の具体例を数多く挙げながら、言語と認知の関わりについて深く考えていきたい。授業では、できるだけ発言しやすい雰囲気を作りたいと思う。受講生の皆さんは授業の前にテキストをよく読み、辞（事）典等で調べてもわからない点は遠慮なく質問してほしい。		
評価方法	授業への参加度30%、テキストの要約発表の充実度30%、学期末レポート40%		
参考文献	授業中に適宜資料を配布する。		
備考			

講義科目名称：英語学基礎演習Ⅲ（21030）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
北山 長貴			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 英語の音声、語彙、統語（文の分析）についての基礎的内容を理解する。 2. 英文の内容を的確に読み、その内容を把握する力をつける。
授業計画	<p>第1回 はじめに</p> <p>第2回 Why Language? (p. 1~3)</p> <p>第3回 Why Language? (p. 4~6)</p> <p>第4回 Why Language? (p. 7~9)</p> <p>第5回 How did speech Begin? (p. 10~12)</p> <p>第6回 How did speech Begin? (p. 13~15)</p> <p>第7回 How did speech Begin? (p. 16~17)</p> <p>第8回 Could We Get Along Without Speech? (p. 18~20)</p> <p>第9回 Could We Get Along Without Speech? (p. 21~23)</p> <p>第10回 Could We Get Along Without Speech? (p. 24~25)</p> <p>第11回 What Is Language Made Up Of? (p. 26~28)</p> <p>第12回 What Is Language Made Up Of? (p. 29~31)</p> <p>第13回 What Is Language Made Up Of? (p. 32~34)</p> <p>第14回 Language Helps Everybody (p. 35~37)</p> <p>第15回 Language Helps Everybody (p. 38~40)</p>
授業概要	英語という「ことば」について書かれたテキストを精読します。英語という言語を客観的に分析するのが英語学です。具体的には英語音声学（発音）と英語の形態論（単語）そして統語論（文）についての基本的な事項を勉強します。毎回、1人1行ごとの輪読をして、英語を正確に理解する訓練をします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	専門用語等の分からない言葉を辞書や関連図書を使用、インターネットを利用して事前に調べておくこと。
テキスト	“All About Language” by Mario Pei. (成美堂) 1,200円（本体価格）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	テキストの予習が前提の授業です。必ず教室に辞書を持ってきてください（電子辞書も可）。
評価方法	授業への参加度（積極性）（50％）、期末レポート課題（50％）
参考文献	
備考	

講義科目名称：英語学演習 I (21110)

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
横山 利夫			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	英語の文法や語法において、これまでの学習の中で十分に理解できなかった項目を、各学生がテキストの説明や例文を熟読し、よく理解すること。		
授業計画	第1回	授業についてのガイダンス、および「英文誤り発見クイズ」	
	第2回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する	
	第3回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する	
	第4回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する	
	第5回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する	
	第6回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する	
	第7回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する	
	第8回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する	
	第9回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する	
	第10回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する	
	第11回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する	
	第12回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する	
	第13回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する	
	第14回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する	
	第15回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する	
	第16回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する	
	第17回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する	
	第18回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する	
	第19回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する	

	ントを用いて説明する
第20回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する
第21回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する
第22回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する
第23回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する
第24回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する
第25回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する
第26回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する
第27回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する
第28回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する
第29回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する
第30回	自分の苦手とする項目、または、興味ある項目をテキストから自分で選び、自分の作成したプリントを用いて説明する
授業概要	英語学習において、たとえば、仮定法がよく理解できない、分詞構文が苦手という方が多いのではないですか。自分の苦手とする項目、または興味ある項目をテキストから自分で選び、例文をプリントして、授業の中で説明してもらいます。以下の文にはそれぞれ誤りがあります。どこが誤りかわかりますか。下記のテキストではそれぞれの誤りについて、わかりやすく説明がなされています。 1 This is the first time I' m here. 2 I have told you all what I know. 3 Can you mend this until Tuesday? 4 Most of people agree with him.
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	しっかり予習をして、授業に参加すること。
テキスト	Michael Swan著 Practical English Usage, Fourth Edition, オックスフォード大学出版局 (2016年) 4500円くらい
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	上記のテキストは英語の個々の語法についての疑問を解決するのに役立つ本です。英文科の学生には是非持って欲しい本です。予習をして、質問を準備して授業に参加すること。
評価方法	主体的な授業参加：50点 (授業中の発言や質問、出席は2/3以上、1回欠席4点減点、受講受理期間も出席を取る)、プリントを提出して説明する50点。
参考文献	
備考	

講義科目名称：英語学演習Ⅱ（21120）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
松井 真人			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	英語をはじめとする人間の言語の構造、使用、獲得、起源などについての理解を深めること。英語で書かれた専門的な内容の文章が読めること。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	Why learn about language?	
	第3回	You' re a linguist? How many languages do you speak?	
	第4回	How many languages are there in the world?	
	第5回	What was the original language?	
	第6回	Do languages have to change?	
	第7回	What are lingua francas?	
	第8回	Isn' t Pidgin English just bad English?	
	第9回	Do all languages have the same grammar?	
	第10回	How do babies learn their mother tongue?	
	第11回	Do animals use language?	
	第12回	How does the brain cope with multiple languages?	
	第13回	Does our language influence the way we think?	
	第14回	Is British English the best English?	
	第15回	What does it mean to be bilingual?	
	第16回	How many languages can a person learn?	
	第17回	What happens if you are raised without language?	
	第18回	Why do languages die?	
	第19回	How are the sounds of language made?	
	第20回	Can monolingualism be cured?	
	第21回	How have our ideas about language learning changed through the years?	
	第22回	Why study languages abroad?	
	第23回	Is elementary school too early to teach foreign languages?	
	第24回	What' s the language of the United States?	
	第25回	Are dialects dying?	

	<p>第26回 Can you make a living loving languages?</p> <p>第27回 How are dictionaries made?</p> <p>第28回 Why do we need translators if we have dictionaries?</p> <p>第29回 Where did English come from?</p> <p>第30回 Is studying Japanese worth the effort?</p>
授業概要	言語に関する英文エッセイを読んでいく。毎回、当番の受講生がエッセイの内容の要約を発表し、担当教員が解説や補足説明を加える。最後に内容について全員で議論する。毎回、1つのエッセイを読む予定である。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予習として、次回学習する範囲の英文をよく読み、わからない語句は辞（事）典等で調べてくること。そしてテキストの内容に関する自分の意見や疑問点を明確にしておくこと。
テキスト	E. M. Rickerson and Barry Hilton (eds.) The 5-Minute Linguist: Bite-sized Essays on Language and Languages. Second Edition. Equinox Publishing. 2,123円（税込 洋書なので購入する書店やその時々の変替レートによって変動する）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	できるだけ発言しやすい雰囲気を作りたいと思う。受講生の皆さんは授業の前にテキストをよく読み、辞（事）典等で調べてもわからない点は遠慮なく質問してほしい。
評価方法	授業への参加度30%、テキストの要約発表の充実度30%、学年末レポート40%
参考文献	授業中に適宜資料を配布する。
備考	

講義科目名称：英語学演習Ⅲ（21130）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
北山 長貴			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 英語音声学、形態論、統語論について知識を深めること。 2. 複雑な英文の構造を把握しその内容を理解する力をつけること。
授業計画	<p>第1回 はじめに</p> <p>第2回 Language Helps Everybody (p. 35~37)</p> <p>第3回 Language Helps Everybody (p. 38~40)</p> <p>第4回 Language Helps Everybody (p. 40~42)</p> <p>第5回 Language Helps Everybody (p. 43) How Language Grows (p. 44~45)</p> <p>第6回 How Language Grows (p. 46~48)</p> <p>第7回 How Language Grows (p. 49~51)</p> <p>第8回 How Language Grows (p. 52~54)</p> <p>第9回 Languages Come in Families (p. 53~55)</p> <p>第10回 Languages Come in Families (p. 56~58)</p> <p>第11回 Languages Come in Families (p. 59~61)</p> <p>第12回 The Languages of Europe (p. 62~64)</p> <p>第13回 The Languages of Europe (p. 65~67)</p> <p>第14回 Languages of Europe (p. 68~70)</p> <p>第15回 Languages of Europe (p. 71~73)</p> <p>第16回 Languages of Europe (p. 74~76)</p> <p>第17回 Languages of Europe (p. 77~79)</p> <p>第18回 One Language for Everybody? (p. 80~82)</p> <p>第19回 One Language for Everybody? (p. 83~85)</p> <p>第20回 One Language for Everybody (p. 86~88)</p> <p>第21回 One Language for Everybody (p. 89~91)</p> <p>第22回 英語構文理解（1）5文型</p> <p>第23回 英語構文理解（2）代名詞の示す語句</p> <p>第24回 英語構文理解（3）関係代名詞と前置詞</p> <p>第25回 英語構文理解（4）並列の表現</p>

	<p>第26回 英語構文理解（5）文頭の前置詞句</p> <p>第27回 英語構文理解（6）分詞構文</p> <p>第28回 英語構文理解（7）相関語句</p> <p>第29回 英語構文理解（8）倒置</p> <p>第30回 英語構文理解（9）句から文への変換</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・英語学基礎演習IIIの続きとなります。継続受講者でなくても理解できる内容です。 ・英語学は英語という言語を客観的に分析します。具体的には英語音声学、形態論、統語論についての理解を深めます。 ・毎回、1人1行ごとの輪読をして、英語を正確に理解する訓練をします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・専門用語等の分からない言葉を辞書や関連図書を使用して事前に調べておくこと。
テキスト	<p>“All About Language” by Mario Pei. (成美堂) 1,200円 (本体価格)</p>
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストをよく読み、何がポイントかを把握して簡潔に説明する練習です。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度（50%）、レポート課題（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：英語学入門 I (21210)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修・平成30年度入学生は教職必修
担当教員			
松井 真人			
開放(教養)			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	現代言語学の枠組みで、英語および言語一般の特徴（特に意味とコミュニケーションの側面）を理解すること。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	動物のコミュニケーションの特徴	
	第3回	人間のことばの特徴	
	第4回	言語研究の対象・言語研究の分野（音韻論・統語論・意味論など）	
	第5回	言語研究の分野（語用論・社会言語学など）・言語資料の収集・言語研究の方法	
	第6回	意味論の研究対象としての意味・ことばの意味は指示対象であるとする説	
	第7回	語の意味は他の語との関係により決まるとする説	
	第8回	ことばの意味は認識の産物とする説	
	第9回	いろいろな意味関係	
	第10回	フレームに基づく意味関係	
	第11回	メタファー	
	第12回	メトニミー	
	第13回	語用論とは？・協調の原理	
	第14回	会話の含意・協調の原理の問題点と限界	
	第15回	ポライトネス	
授業概要	講義形式で英語および人間の言語一般の特徴について解説する。言語学の分野としては、主に意味論、認知言語学、語用論を扱う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	予習として、次回学習するテキストの範囲をよく読むこと。復習として、授業で配布された資料をよく読み、学習した内容の理解に努めること。		
テキスト	長谷川瑞穂（編著）『はじめての英語学<改訂版>』研究社 2,700円（税込）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生が英語学や言語学に対する関心を持つことができるように、多くの具体例を用いて分かりやすい解説を心がけたい。分からない点は遠慮なく質問してほしい。この授業の他に後期開講の英語学入門ⅡとⅢを受講することによって、英語学全般を学ぶことができるので、それらの授業も併せて受講することをお勧めする。		
評価方法	授業への参加度25%、学期末試験75%		
参考文献	授業中に適宜資料を配布する。		
備考			

講義科目名称：英語学入門Ⅱ（21220）

授業コード：

英文科目名称：An Introduction to English Linguistics Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修・教職必修
担当教員			
横山 利夫			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	英語の歴史的変遷について理解する。		
授業計画	第1回	Introduction	
	第2回	Indo-European	
	第3回	Indo-European	
	第4回	Britain Before the Coming of the Anglo-Saxons	
	第5回	The Coming of the Anglo-Saxons	
	第6回	Old English	
	第7回	Old English, The Scandinavian Invasion	
	第8回	The Scandinavian Invasion	
	第9回	The Norman Conquest	
	第10回	The Norman Conquest	
	第11回	Middle English	
	第12回	Middle English, Early Modern English	
	第13回	Early Modern English	
	第14回	Early Modern English	
	第15回	Modern English	
授業概要	500年前までヨーロッパ辺境の一地方語にすぎなかった英語が世界各地に波及し、今日では国際共通語となっている。その英語がどのような発達過程を経て、現在の姿になったのかを理解する。 授業方法：受講生が順番にテキストの内容を要約し、担当者が解説する。プリントも使用しながら、内容理解に重点をおいた指導をする。ビデオ教材も使用する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	イギリス史について書かれた本を読むこと。		
テキスト	Gary Buck 著 The History of the English Language in Simplified English（英潮社1996年）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	毎回、テキスト（やさしい英語で書かれている）をよく読んでから授業に臨んでください。イギリス史について少し理解しているほうがよい。質問の時間を設けるのでわからないところ質問してください。		
評価方法	試験（70点）、主体的な授業参加30点		
参考文献			
備考			

講義科目名称：英語学入門Ⅲ（21230）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修・教職必修
担当教員			
北山 長貴			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 英語音声学について理解を深めること。 2. 英語の形態論、社会言語学、言語習得理論について基本的な概念を理解すること。
授業計画	<p>第1回 言語学と英語学</p> <p>第2回 英語の音声：母音</p> <p>第3回 英語の音声：子音</p> <p>第4回 音節、強勢、イントネーション</p> <p>第5回 音素とは</p> <p>第6回 音の変化：同化</p> <p>第7回 形態論「単語ができる仕組み」（第10章）</p> <p>第8回 接辞：接頭辞と接尾辞</p> <p>第9回 英語の語源</p> <p>第10回 語形成</p> <p>第11回 社会言語学：「ことばと社会」（第23章）</p> <p>第12回 変種とは</p> <p>第13回 ピジンとクリオール</p> <p>第14回 言語習得：「日本の英語教育と教授法」（第25章）</p> <p>第15回 第一言語習得</p>
授業概要	・英語音声学、形態論、社会言語学、言語習得を概論します。英語音声学は英語の音声のしくみである母音・子音の体系を踏まえ音の変化等を概論します。・学習内容を深めるためプリントを使い応用練習もします。・形態論、社会言語学（国際共通語としての英語）、言語習得理論については授業前に授業計画に記載してあるテキストの該当する章を必ず読んでおくこと。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	・翌週の学習内容の範囲に該当するテキストのページを指定するので、その該当箇所を予め読み、理解すること。
テキスト	長谷川瑞穂 編『はじめての英語学』（研究社）2,625（税込価格）（英語学入門I～III共通テキスト）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	・英語学を今後も研究する学生は英語学入門ⅠとⅡを受講することが望ましい。 ・教職を希望する学生は1年生で受講することが望ましい。
評価方法	授業への参加度（積極性）（50%）、試験（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：英語学講読（21240）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
北山 長貴			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 英語学を研究するために必要な基本分野の概要を理解すること。 2. 多くの英文を一度に読み、英文の内容把握が的確にできるようになること。
授業計画	<p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 Semantic properties</p> <p>第3回 Ambiguity</p> <p>第4回 Metaphor and Poem</p> <p>第5回 Semantic Change</p> <p>第6回 Stylistics</p> <p>第7回 Speech and writing</p> <p>第8回 Speech acts and pragmatics</p> <p>第9回 Aspects of dialect</p> <p>第10回 Language and sexism</p> <p>第11回 New word formation</p> <p>第12回 Child language acquisition</p> <p>第13回 Animals' language capacity</p> <p>第14回 General review</p> <p>第15回 What is language?</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 英語学を今後も研究したい学生向けの授業です。 英語で書かれたテキストを精読して英語学の基本事項を学びます。 1回の授業で1ユニットを輪読します。プリントを使い内容理解を深めるようにします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 専門用語等の分からない言葉を辞書や関連図書を使用して事前に調べておくこと。
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> “Language as Human Essence” by Victoria A. Fromkin 三修社（1300円）（本体価格）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> 予習しての出席が前提の授業です。 必ず教室に辞書を持ってきてください。 専門的な内容が含まれていますが、なるべく理解しやすい様に説明します。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業への参加度（積極性）（50%）、レポート提出（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：西洋史（21330）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
山崎 彰			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. ヨーロッパの複数の国の歴史を学ぶことで、ヨーロッパ史について多面的な関心を深めることができるようになる。 2. 授業で扱った国の個性が長い歴史の経過から形成されたことを理解し、適切に説明することができるようになる。		
授業計画	第1回	全体の課題	
	第2回	イタリア古代と中世	
	第3回	ルネサンスと近代イタリア	
	第4回	中世フランス	
	第5回	近世フランス	
	第6回	フランス革命と近代フランス	
	第7回	ブリテン島諸地域の形成	
	第8回	連合王国の形成	
	第9回	イギリス植民地帝国	
	第10回	スイス盟約者団	
	第11回	近代スイス連邦国家	
	第12回	中世ドイツ	
	第13回	近世ドイツ	
	第14回	現代ドイツ	
	第15回	まとめ	
授業概要	ヨーロッパの多様な国家を互いに比較し、それぞれの特徴を明確にする。この特徴が中世、場合によっては古代以来、長い時間をかけて形成してきたことを明らかにし、これによってヨーロッパについてのイメージを豊かにする。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	日頃よりヨーロッパ史に関する書物を読み、この授業のテーマについて主体的・積極的に考えること。		
テキスト	プリント配付		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ヨーロッパに関する本（歴史書に限らず）をできるだけ多く読んでほしい。		
評価方法	授業への参加度（40%）、期末の理解度確認調査（60%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：日本文化論（21340）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
宮田 直樹			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 江戸時代の文化が、現代のわたしたちの生活にもつながっていることを理解する。 2. 日本の文化財について、具体的な文化財の事例から説明することができる。
授業計画	<p>第1回 はじめに</p> <p>第2回 なぜ、歴史を学ぶのか？</p> <p>第3回 江戸時代の文化（1）江戸時代と古文書—古文書を読んでみる—</p> <p>第4回 江戸時代の文化（2）江戸時代と読み書き—なぜ読み書きできるのか？—</p> <p>第5回 江戸時代の文化（3）江戸時代の生活—家計・食事・結婚と離婚—</p> <p>第6回 江戸時代の文化（4）江戸時代のランキング—見立番付の世界—</p> <p>第7回 江戸時代の文化（5）江戸時代の都市とファッション（服飾）・流行</p> <p>第8回 文化財とは？—文化財の種類と保護制度—</p> <p>第9回 山形県・米沢市の文化財と文化財保護行政</p> <p>第10回 米沢市の文化財（1）国宝洛中洛外図屏風と米沢藩主上杉家の文化財</p> <p>第11回 米沢市の文化財（2）史跡米沢藩主上杉家墓所と米沢藩家臣団墓地</p> <p>第12回 米沢市の文化財（3）史跡館山城跡の歴史と遺構</p> <p>第13回 米沢市の文化財（4）史跡上杉治憲敬師郊迎跡と文化財の保存修理</p> <p>第14回 文化財の危機？—文化財を未来へ伝えるために—</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	はじめにオリエンテーリング（1～2回）、その後は2部構成とし、第1部は江戸時代の文化について（3～7回）、第2部は文化財について（8～14回）、最後にまとめ（15回）を行います。みなさんが学んでいる山形県・米沢市の事例を中心にスライド等を中心に紹介し、一緒に考えていきます。
実務経験及び授業の内容	担当教員は米沢市の現役職員です。特に第2部の授業内容は、文化財を担当する市職員としての実務経験を活かした授業を行います。歴史や文化財、地方自治体職員の仕事に興味のある学生の受講を歓迎します。
時間外学習	日頃よりの読書と博物館・現地等での文化財の見学を推奨します。
テキスト	テキストは使用しません。毎回の授業時にレジюме・資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	わたしたちの生活は、歴史的な積み重ねの上に成り立っているものです。日本の文化について、歴史的な視野に立って江戸時代と文化財の身近な事例から、一緒に考えてみましょう。
評価方法	毎回の授業時に提出してもらった感想・質問のミニペーパー（60%）と、期末のレポート（40%）で評価します。
参考文献	参考文献等は適宜授業の中でご紹介します。
備考	

講義科目名称：異文化理解（21351）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職必修・平成30年度入学生は教職選択必修
担当教員			
マーニ・タヴァコリ			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	The purpose of this class is to learn about the different cultures of the world, and for students to think about the role that culture plays in their life.
授業計画	<p>第1回 Introduction to the Course</p> <p>第2回 Language and Culture</p> <p>第3回 Language and Culture Audiovisual</p> <p>第4回 Language and Culture Audiovisual Discussion</p> <p>第5回 Food and Culture</p> <p>第6回 Food and Culture Audiovisual</p> <p>第7回 Food and Culture Audiovisual Discussion</p> <p>第8回 Religion and Culture</p> <p>第9回 Religion and Culture Audiovisual</p> <p>第10回 Religion and Culture Audiovisual Discussion</p> <p>第11回 Celebrations and Culture</p> <p>第12回 Celebrations and Culture Audiovisual</p> <p>第13回 Celebrations and Culture Audiovisual Discussion</p> <p>第14回 Culture Discussion Groups</p> <p>第15回 Final Presentation</p>
授業概要	The class is divided into 4 sections that look at different aspects of culture: 1. Language 2. Food 3. Religion 4 Festivals and Celebrations. Students will write papers about that aspect of culture for different countries. Interaction with foreign students from different countries will help students gain a broader cultural understanding.
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	Report
テキスト	There is no textbook for this class.
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	Learning about different cultures is fascinating. I hopes students will enjoy this class.
評価方法	Grades will be based on active class participation (50%) and research papers(50%)
参考文献	
備考	

講義科目名称：異文化コミュニケーション (21370)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・平成30年度入学生は教職選択必修
担当教員			
阿部 隆夫			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	国際化の中で必要な柔軟な異文化間のコミュニケーション能力育成を主題とする。目標は、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解させること、文化の多様性と異文化交流の意義について体験として理解させること、世界で英語が使われている地方の歴史、社会、文化の基本を把握させることにある。
授業計画	<p>第1回 異文化間コミュニケーション論の誕生 また、並行して隔週で、副教材の事例1から事例15までを考察する。</p> <p>第2回 異文化間コミュニケーション論の可能性</p> <p>第3回 基本概念の説明と応用（文化とは）</p> <p>第4回 基本概念の説明と応用（常識とは）</p> <p>第5回 基本概念の説明と応用（コミュニケーションの時間とは）</p> <p>第6回 基本概念の説明と応用（コミュニケーション空間とは）</p> <p>第7回 基本概念の説明と応用（学習の形態差とは）</p> <p>第8回 基本概念の説明と応用（認識の形態差とは）</p> <p>第9回 基本概念の説明と応用（コミュニケーションの形態とは）</p> <p>第10回 近代ヨーロッパ人の航海活動に伴う異文化交流の歴史</p> <p>第11回 近代ヨーロッパ人の航海活動に伴う異文化・異民族間問題</p> <p>第12回 北アメリカの毛皮交易をめぐるヨーロッパ系住民と先住民の現代までの交流</p> <p>第13回 カナダでの対先住民政策の比較例として日本社会のアイヌ民族待遇を考える</p> <p>第14回 アフリカの民族紛争に関わる異文化間の問題</p> <p>第15回 国際化する日本社会での異文化間コミュニケーションの事例</p>
授業概要	異文化間コミュニケーション論の誕生から現在まで発達までの理論と応用例の説明、身近な異文化間の事例や世界で起こっている異文化間問題に対するこの理論の応用
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	隔週で授業内容に則した課題が出されるので専用の用紙に記載の上提出してほしい。
テキスト	エドワード・T・ホール著「沈黙のこぼれ」（南雲堂1966年）、タカオアベ『ピンときた！納得の異文化間英語コミュニケーション』（開拓社 2011年）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	基礎理論を着実に理解させた後の期間後半になってから事例研究を行う。各自で関心があるレポートの題目を平素から捜して用意することを期待する。
評価方法	提出課題（40%）と試験（60%）
参考文献	『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』（有斐閣2007年）
備考	

講義科目名称：英米文化論（21320）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・平成30年度入学生は教職選択必修
担当教員			
小林 亜希			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 英語が使われている国・地域の歴史・社会・文化について基本的な内容を理解している。 2. 英米文化を学ぶ上で重要な概念についての理解を深める。 3. 様々な文化表象を手がかりに、英語圏の文化を読み解く方法を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 ガイダンスー「文化」とは何か</p> <p>第2回 英語</p> <p>第3回 キリスト教</p> <p>第4回 民主主義</p> <p>第5回 資本主義／「個人」の誕生</p> <p>第6回 国民国家／植民地主義</p> <p>第7回 ジェンダー／セクシュアリティ</p> <p>第8回 絵画と建築ー英国の風景画と庭</p> <p>第9回 〈人種〉の表象（1）</p> <p>第10回 〈人種〉の表象（2）</p> <p>第11回 音楽ー大衆音楽と公民権運動</p> <p>第12回 映画（1）ー映画の構造分析</p> <p>第13回 映画（2）映画にみる「文化」</p> <p>第14回 新自由主義における〈労働〉と〈コミュニケーション〉</p> <p>第15回 まとめーレポートの書き方について</p>
授業概要	前半（第1回～第7回）は、英米文化を読み解くためのキーワード（基本概念）を中心に考察し、後半（第8回～第15回）は、絵画、音楽、建築、映画等の具体的な表象を分析しながら、イギリスとアメリカの文化の構造を読み解いていきます。また、毎回リアクション・ペーパーを利用し、授業の質問に答えます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で扱うキーワード（基本概念）を辞書やインターネットを活用して調べておくこと。
テキスト	参考資料を適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生の関心を引くように、身近な事例を取り入れながら講義を進めていきたいと思ひます。 ・扱うキーワードを辞書やインターネットで調べてから授業に臨むと理解が深まります。 ・受講生の理解・関心に応じて、進度・内容は変わることがあります。
評価方法	レポート（100%）。授業回数の3分の2以上の出席が条件です。
参考文献	参考書を適宜紹介します。
備考	

講義科目名称：異文化理解基礎演習（21380）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
畑田 秀将			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	アメリカの政治や社会についてさまざまな視点から考察する 1 欧米の政治・経済、社会・法律の社会システムについて理解し、わが国と比較考察できる。 2 近現代の欧米の民主主義と政治思想について、私見を述べることができる。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	わが国と国際社会の動向	
	第3回	時事問題の個別発表1	
	第4回	時事問題の個別発表2	
	第5回	ベトナム戦争（発表）	
	第6回	1960年代のアメリカ社会	
	第7回	民族紛争（発表）	
	第8回	パレスチナ紛争	
	第9回	冷戦（発表）	
	第10回	冷戦とイデオロギー	
	第11回	戦争とプロパガンダ	
	第12回	戦争と焚書	
	第13回	20世紀のアメリカ政治文化（発表）	
	第14回	20世紀のアメリカ政治文化	
	第15回	補足・まとめ・振り返り	
授業概要	本授業では、アメリカの近現代史から政治・経済、社会・法律について、毎回テーマを設定し、全員でテキストを輪読・発表を行う。理解を深めるために映像も用いて解説を行いたい。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	予習 輪読のテキストを2時間ほど熟読しておくこと。また、発表担当者はレジュメやプレゼン資料を作成し、配布物を人数分、印刷しておくこと。 復習 テキストや発表者配布の資料を参考に、図書館等で関連する学術書・関連資料の探索と熟読を毎回2時間程度行うこと。		
テキスト	山口真由『リベラルという病』新潮社、2017年。 その他、受講者のテーマに則ったテキストを選択してもらうので、履修者確定後に相談の上、決定したい。主に新書（1000円以内）を中心に数冊用意してもらう。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	テキストは、発表者以外の者もきちんと読み、質疑応答ができるよう準備を欠かさないこと。		
評価方法	課題・発表50%、事前事後調査、質疑応答など50%		
参考文献	デジタル資料（DVD）NHK『映像の世紀』NHKエンタープライズ、2000年。		
備考			

講義科目名称：異文化コミュニケーション基礎演習(21381)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
阿部 隆夫			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	国際化の中で必要な柔軟な異文化間のコミュニケーション能力育成を主題とする。目標は、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解させること、文化の多様性と異文化交流の意義について体験として理解させること、世界で英語が使われている地方の歴史、社会、文化の基本を把握させることにある。
授業計画	<p>第1回 PFC導入、ハルヤマダ導入、『英語コミ』導入、TOEIC問題集(毎回1ページ) PFC教材紹介、DGDR教材紹介、『英語コミ』教材紹介、主教材PFCと副教材DGDR、『英語コミ』、他TOEICを毎回1ページずつ毎回の時間を三分し、均等にアてる。 (省略語) DGDR: ハルヤマダ『喋るアメリカ人聴く日本人』 PFC: Polite Fictions in Collision 『英語コミ』：ピンときた！納得の異文化間英語コミュニケーション</p> <p>第2回 PFC、1章(英語圏の人間対等性)問題考察、『英語コミ』、事例13「家に招待される」</p> <p>第3回 PFC1章音読確認、DGDR ch. 1-1(即ち1章問題1、以下同様)自立と甘え</p> <p>第4回 DGDR Ch. 1-2, 1-3 論ず方法、自己独立性、『英語コミ』事例14「家に招待する」</p> <p>第5回 PFC 2章(親近性)問題考察、『英語コミ』事例15 単純状況コミュニケーション</p> <p>第6回 PFC2章音読、DGDR 2-4 二重否定の禁止</p> <p>第7回 DGDR2-5 neutralな人間関係、『英語コミ』事例16 複雑状況コミュニケーション</p> <p>第8回 PFC 3章(くつろいだ関係)問題考察、『英語コミ』事例17 謝罪の違い</p> <p>第9回 PFC 3章音読、DGDR 3-1 呼称の比較</p> <p>第10回 DGDR 3-2 尊敬語・謙譲語の欠如、『英語コミ』事例18 謝罪の誤解</p> <p>第11回 PFC 4章(独立と共存)問題考察、『英語コミ』事例19 謝罪の転用</p> <p>第12回 PFC 4章音読、DGDR 3-3挨拶の仕組み</p> <p>第13回 DGDR 4-4 作り上げるか、当てはめるかの差、『英語コミ』事例20 名前で呼ぶか関係で呼ぶか</p> <p>第14回 PFC 5章(個と集団の意識差)『英語コミ』事例21 「よろしく願います」の文化</p> <p>第15回 PFC 5章音読</p>
授業概要	異文化間コミュニケーション論・社会言語学の洋書主教材で学ぶ時間、和書副教材で学ぶ時間、社会言語学ワークブックの時間、TOEIC(文法・読解)とTOEFLの練習時間を設ける。異文化間コミュニケーション論を駆使して英語圏の社会言語文化の理解を深める練習をする。日本で普及していない最新の言語習得方法に基づき和訳・英訳を超えて英語圏で友人ができるようなコミュニケーターを養成する訓練をする。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回出される小課題を専用の用紙に記載して提出してほしい。異文化関連の専門書を二冊以上読んで学期末に書評を提出すること。
テキスト	タカオ・アベ『ピンときた！納得の異文化間英語コミュニケーション』(開拓社2012年)、『公式TOEIC Listening & Reading 問題集2』(国際ビジネスコミュニケーション協会2016年)、ハルヤマダ『喋るアメリカ人聴く日本人』(成甲書房 2003年)、Nancy Sakamoto, Polite Fictions in Collision (Kinseido 2004)
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	留学希望者は実務的な個別準備指導をする。期末課題としては、各自が言語学や英語などに関連した研究書の書評[3-5ページ]又は口頭発表のどちらかが課せられる。英語論文の添削指導も可能。
評価方法	平常の発表課題(30%)、提出課題(50%)と小試験(20%)

講義科目名称：異文化理解演習（21390）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
畑田 秀将			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	図書館文化の背景にある政治・経済・法律・社会について、日米の比較を通して考察を深める ・アメリカの政治・経済・法律・社会について、現代の諸問題と関連付けて説明することができる ・欧米の図書館・情報文化を取り巻く背景知識を理解した上で、民主主義の意義と図書館の関係について、私見を述べることができる。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	近代国家の刑事裁判	
	第3回	冤罪事件	
	第4回	推定無罪の原則	
	第5回	自白と可視化	
	第6回	罪刑法定主義	
	第7回	世界の司法制度	
	第8回	陪審員制度と裁判員制度	
	第9回	刑事事件とマイノリティー	
	第10回	死刑存廃問題	
	第11回	安楽死と尊厳死	
	第12回	臓器移植制度	
	第13回	大衆と民主主義	
	第14回	マキャヴェッリの大衆観	
	第15回	前半部の振り返り	
	第16回	欧米の政治文化	
	第17回	アメリカの保守とリベラル	
	第18回	近代の政治思想	
	第19回	日本の政治文化	
	第20回	日本の保守とリベラル	
	第21回	戦争とプロパガンダ・焚書	
	第22回	民族紛争とアイデンティティ(ドイツ)	
	第23回	民族紛争とアイデンティティ(ユーゴ)	
	第24回	図書館と民族浄化	

	第25回	表現の自由とマイノリティー
	第26回	ハンディキャップと図書館文化
	第27回	多文化サービスの実際
	第28回	ソーシャルライブラリー
	第29回	パブリックライブラリー
	第30回	補足・まとめ・振り返り
授業概要	イデオロギー、表現の自由、マイノリティーなど社会を二分化する問題をメインテーマに図書館と絡めながら議論する。カレントな情報とメインテーマの知識を関連付けて捉える力を身に付けてほしいので、毎回、授業の最初に、新聞・雑誌の時事的記事を数名が報告、その後、上記のメインテーマに則った課題について、担当者1・2名が報告するスタイルをとりたい。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	予習 輪読のテキストを2時間ほど熟読しておくこと。また、発表担当者はレジュメやプレゼン資料を作成し、配布物を人数分、印刷しておくことしておくこと。 復習 テキストや発表者配布の資料を参考に、図書館等で関連する学術書・関連資料の探索と熟読を毎回2時間程度行うこと。	
テキスト	受講者のテーマに則ったテキストを選択してもらうので、履修者確定後に相談の上、決定したい。主に新書(1000円以内)を中心に数冊用意してもらう。	
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	図書館の二次資料も活用できるようアドバイスする。 夏休み等では実際の図書館見学や近隣の学校への読み聞かせなどを実施したい。	
評価方法	毎時の課題・発表・発言100%	
参考文献		
備考	課題・発表の際の新聞記事やレジュメは、各自、ゼミ生分のコピーを事前に用意しておくこと。	